

森林の整備



木下沢渓谷冒険の森保全活動と環境教育

東京都八王子市



事業概要

東京都八王子市裏高尾町にある木下沢下流域の森林を対象に、市民の憩いの場やレクリエーションの場、また多くの生物が生息・生育する場として利活用できる森林にしていくことを目的に、次のような活動を行っている。①歩道・遊歩道・ふれあい広場等の整備、②間伐・風倒木の処理・植樹等の森林整備、③裏高尾・木下沢渓谷連絡会議と連携した情報の共有、④自然とふれあい自然を知る行事の企画・提供、⑤イベント参加者による生物多様性に即した環境づくりの実施と学習。

事業成果

新しい拠点・整備エリアにて周辺生物調査を継続して行うとともに、ガイドブック、生物図鑑、チェックリストを配布して認知向上に努めた。こうした活動によって定期的に参加するメンバーのコミュニケーションが活性化し、初

回参加者や親子の満足度の高い植樹や間伐を含めたプログラムが効果的に実施できるようになった。その結果、定例作業に加えて年2回の親子体験イベント、16回のプチ体験イベントを実施できた。

事業をよく知る関係者の声

- ・平常の生活では体験できないようなことが家族でできてうれしい。(リピート参加者)
- ・子どもを連れての参加ではあるが、もっと森の整備を試みたい。(リピート参加者)

参加者の声

- ・木が倒れたところがすごかった。(小学生)
- ・木を植えたのが楽しかった。(小学生)
- ・のこぎりで木を切れて面白かった。(小学生)
- ・ツリフネソウの種に触れたらパチッとほじけたのが気に入って、次々と触っていた。(小学生の保護者)



植樹体験



下刈り



水生昆虫観察



森林教室

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.15ha
 植付本数：100本
 下刈面積：0.2ha
 除伐面積：0.4ha
 間伐面積：0.4ha
 作業道整備：400m
 生物調査：8回
 イベント：17回

参加者数

都内：270人
 都外：55人
 計：325人

樹種

カツラ、ヤマザクラ、イロハモミジ、ホオノキ、ヤマグリほか

富士山緑の募金の森造成事業

静岡県富士宮市



事業概要

平成8年9月の台風17号は、富士山南東斜面に風倒木など甚大な被害を与えた。本事業は、その被害箇所の復旧を目的に開始された事業であり、国土緑化推進機構が提唱する「国民参加の森林づくり活動」の場として、地域の森林ボランティア団体に呼びかけ、今日まで実行委員会方式で緑の募金中央事業として実施している。

事業成果

平成12年度より植栽したヒノキ人工林エリア(16.85ha)の

計画的な保育間伐(2.08ha)を、請負(富士森林組合)により令和5年度に引き続き実施した。また、植生調査等を継続するとともに、定期的に巡視等を実施した。

事業をよく知る関係者の声

- ・台風被害跡地への植栽開始から25年が経過し、ヒノキ林、広葉樹林ともに順調に生育しているものの、一部、シカによる森林被害がみられる。(ボランティア団体)
- ・事業地の谷側にて、一部崖崩れが発生している。(ボランティア団体)



柵周辺の草刈り・つる切り作業中



毎木調査



灌木の中でのつる切り作業中



網下の隙間の補修作業

実績とりまとめ

作業内容
 間伐面積：2.08ha
 保全巡視：3,100m
参加者数
 県内：58人
 計：58人

湯河原で進める企業の森づくり体験活動事業

神奈川県湯河原町



事業概要

湯河原町の協力を得て進める(株)日本触媒・湯河原万葉の森は、下流には町の浄水場があり重要な水源林である。そのため、水源林として下層植生の豊かな水源涵養機能の高い森林づくりを目指すとともに、生物多様性など森林の様々な働きへの理解を深める体験活動を行うものである。主な活動は、間伐、水源整備、自然観察会等を行う。また、この事業は企業のCSR活動を行うために、企業の要望に沿う形で活動内容などを計画している。

事業成果

今年度は2回の活動(10月、5月)を予定していたが、いずれも天候不良のため中止となった。ただし、森林の維持管理については、事務局スタッフにより実施した。

事業をよく知る関係者の声

- ・2回の活動を予定していたが、2回とも中止になり非常に残念。いつでもこの森に来ていただけるように維持管理に努めている。来年度は社員の皆さんに来ていただき、一緒に活動ができることを願っている。(森林インストラクター)



下刈作業



ワサビ棚整備



草刈り機のメンテナンス



事務局スタッフにより森林の維持管理を実施

実績とりまとめ

作業内容
森林維持管理

参加者数
県内：9人
計：9人

南足柄で進める企業の森づくり体験活動事業

神奈川県南足柄市



事業概要

緑の募金に協力する住友三井オートサービス(株)の森づくり体験活動が円滑に進み、より充実した成果が得られるよう、当財団の森林づくり活動に係る蓄積したノウハウを活用し、活動計画の作成、それに基づく森林整備や環境整備、森づくり活動の指導などを行う。今年度は、森林作業のほか、ベンチづくりや巣箱づくりなどを行った。

事業成果

シイタケのホダ木の本伏せ作業や巣箱づくり、広葉樹の実生の採集など新たな取り組みを行った。また、シカ肉のジビエに舌鼓を打つことができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・引き続き企業事務局や参加者からの希望を伺いながら、マンネリ化しないように活動を提案し、当日に安全かつ作業を進めながらも楽しんでいただけるよう事前準備を行った。ただし、今年度は、天候により、活動予定回数数の半分しか実施することができず、残念だった。(森林インストラクター)

参加者の声

- ・シカ肉のジビエおいしかった。枝打ち作業後に達成感を感じることができた。(SMAS社員)



のこぎりを使用して木を伐倒



枝打ち作業



作った巣箱の設置



シイタケ原木本伏せ

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：0.02ha
 枝打面積：0.05ha
 間伐面積：0.02ha
 径路整備：2m
 林内整理：0.05ha
 森林調査：0.04ha
 その他：シイタケ原木本伏せ、
 巣箱づくりほか

参加者数

計：138人

トトロの森と狭山丘陵周辺緑地での里山保全

埼玉県所沢市



事業概要

生物多様性と里山の景観保全のため里山環境を再生し、活動を普及することで、経済・人員の支援につなげ、持続的な里山管理を目指す。活動は、里山管理ボランティア「何かし隊」、地域の協力団体等を中心とした里山管理作業。自立した活動を進めるための作業道具の購入や里山管理に必要な各種講習会の開催。②危険・支障木等の処理、萌芽更新伐採。危険・支障木は、外部委託により処理。③新たなボランティアとそのグループ確保のための活動の普及啓発活動。④各トラスト地解説看板の整備、広報誌制作、ボランティア登録説明会、トトロの森やクロスケの家のガイドツアーの開催、収穫祭、クロスケの家の一般公開。⑤取得したトトロの森の生物調査と管理方針・計画の作成をした。既存の森についても生物調査、管理による成果評価により管理方針・計画の変更を検討。生物調査に必要な機材の購入、調査技能向上の講習会の実施。

事業成果

- ・継続的な支援により里山管理を安全かつ自立的に実施できている。危険木の対処や調査の高度化で質の高いデータを得ることができた。外来種のアライグマの対策も進めている。普及啓発の成果として、新たに一か所のトトロの森を増やすことができた。ナラ枯れは収束傾向である。

事業をよく知る関係者の声

- ・助成金でGPSと植物検索図鑑を購入した。GPSを購入できたことで、短時間で正確に測ることができるようになった。また、道具が揃うことで、ボランティア活動に参加しやすくなり、ボランティアの定着、増加につながると考えている。(当基金理事)

参加者の声

- ・トトロの森には多様な植物、動物がたくさんいるので何かの方法で発信できたら良い。森を守る仲間ともっと仲良くなりたい。(何かし隊20代女性)
- ・安全への配慮が今まで以上に難しくなってきたので、講習会はもっとあっても良い。(何かし隊50代男性)



植生調査(トトロの森51号地)



「何かし隊」が萌芽更新作業を実施(トトロの森2号地)



どんぐりトトロづくり(クロスケの家)



看板の修繕(クロスケの家)

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：6.75ha
 除伐面積：6.86ha
 間伐面積：6.86ha
 ゴミ拾い：0.72ha
 生物調査：2.20ha
 イベント：13回

参加者数

計：1,156人

渡良瀬川源流の荒廃地緑化事業

栃木県日光市足尾町



事業概要

銅山の煙害で荒廃した足尾の山々に木を植え、緑したたる森に還すとともに、自然環境を大切にすることを目的とする。主な活動は以下のとおり。①小学生等の体験植樹及びボランティア募集による植樹会の開催、②植樹後の下刈りなどの管理作業、③荒れている植樹予定地の地盤改良工事。当会スタッフで作業し、技術的・体力的に困難な場合は外部委託する。

事業成果

今年度は6,704人が参加し1万2,814本の苗木を植えた。これまで29年間で23万3千人が31万5千本を植えた。植樹活動には栃木県内をはじめ多くの企業の参加が増え、助成による取り組みのPRによりその後の管理作業への参加も得られるようになった。植樹は初めてという人も多量中、木柵で階段状に整備し、黒土を入れる地盤改良整備を行ったことで、安全かつ円滑に植樹をすることができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・植樹地は栄養分の少ない土壌のため、苗木の活着率が課題である。現地調査や土壌分析を行い、緑化試験での植樹経過観察中であり、その結果をもとに今後の緑化に期待している。(緑化支援業者50代)

参加者の声

- ・今年も来られて良かった。毎年大きくなっている木々を見て元気をもらっている(40代)。
- ・毎年この景色、美しい山々そして木のない山に圧倒されている。多くの人に植樹を体験し、自然の偉大さやもろさ、人のしてきたこと、すべきことを考えてほしい。(60代)
- ・若い方の参加が多くありがたい。家族での参加やボーイスカウト、学校での参加など若い人たちが緑化に関心を持つことは大切だと思う。(70代)



小学生の植樹体験



ボランティアによる下刈り



モノレールで資材搬送を行いながら久蔵口植樹地の整備



市内企業 CSR 活動で黒土のバケツリレー

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：1.1ha
 植付本数：12,814本
 下刈面積：0.6ha
 地盤整備面積：0.065ha
 イベント：116回

参加者数

県内：2,915人
 県外：3,789人
 計：6,704人

樹種

コナラ、クヌギ、ガマズミ、ヤマボウシ、クリほか

国民参加による災害に強いめぐりの森づくり

神奈川県横須賀市



事業概要

三浦半島の中央に位置し、水源林として源流から支流の水質を保ち、トウキョウサンショウウオも生息していた神奈川県有地「湘南国際村めぐりの森」は、現在、バブル期に開発された跡地として荒廃しており、標高220～300mのなだらかな丘陵地帯でありながらススキやメドハギなどの河川の植生の様な貧栄養な景観が続く。当該地にて2009年より神奈川県のコア事業として、植樹による土地本来の森の再生を実践する。

事業成果

今年度は、春と秋の定例植樹事業開催時の2日間と年間作業で、6,930本の潜在自然植生種を植樹し、植樹累計本数8万6,292本・254haの緑化につながった。また、「湘南国際村めぐりの森」は、国際的に認定・注目される生物多様性保全のモデル拠点となっている。

事業をよく知る関係者の声

- 第28回湘南国際村めぐりの森植樹祭では、過去最高の来場者数666名となり、自然共生サイト認定地となったことの効果を実感した。(NPO法人グリーンパワーファクトリー代表者)

参加者の声

- 3年前から参加し、自分達で植えた木の生長を楽しみにしている。
- 防災林の大切さを知ると同時に、森の再生にも貢献できる機会があった。
- 植樹祭に参加し、少しでも持続可能な未来に向けての貢献をしたい。
- 地球の営みを護る森の再生を次世代に伝えていきたい。
- 社会貢献とSDGs推進、従業員の環境意識向上に資するイベントである。
- 子どもと一緒に木を植えるという体験が良い。



第27回湘南国際村めぐりの森育樹祭



G20 地球環境セクション植樹祭



土を掘り後に板を設置(植樹地整備)



第28回湘南国際村めぐりの森植樹祭

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：1.57ha
 植付本数：6,930本
 樹勢回復：1万本
 イベント：6回
 大地再生等：2ha

参加者数

計：2,181人

樹種

土地本来の自生の樹種(シイ・タブ・カシ類等、25～40種)

丹波平松の森づくり

兵庫県姫路市、明石市、丹波市、宍粟市



事業概要

本事業の目的は、植樹活動を通じて、植樹場所である丹波市春日町の地域住民の方々との交流を深め、地域とのつながりを醸成することである。主な活動内容として、ドングリ拾い（明石市）、苗木の育苗（姫路市、明石市）、下刈り（丹波市、宍粟市）、植樹活動（丹波市）である。

事業成果

下刈りや事前現地確認など、植樹会開催までの準備活動を重ねる中で、丹波市春日町を複数回訪問し、継続的な地域交流を推進した。その成果として、丹波市春日町より次回以降の植樹会候補地として継続的な開催依頼を受けている。

事業をよく知る関係者の声

- ・新型コロナウイルスの影響もなくなり、各地でイベントが盛んになってきたことから、他地域のイベントと日程が重なり、参加者が少なくなってしまうことがあった。日程調整は難しいと感じている。また、屋外での活動であるため天候の影響はどうしても受けてしまうが、植樹会等で屋内の公民館を利用させていただいていることは非常に助かっている。

参加者の声

- ・あいにくの雨だったが、全てのイベントに参加することができて、楽しませていただいた。植樹はいつもより数ができなくて残念。また次回は多く頑張りたい(ドングリ通信より)



明石公園にてドングリ拾い



下刈りと補植作業（丹波市春日町）



植樹地整備作業（丹波市春日町）



参加者約100人で植樹会（丹波市春日町）

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：1ha
 植付本数：130本
 下刈面積：3ha
 除伐面積：1ha
 森林資源活用（ドングリ）：
 81kg

参加者数

県内：220人
 計：220人

樹種

クヌギ

グリーンベイ OSAKA 森の維持管理とコミュニティ・フォレストリー活動

大阪府堺市



事業概要

本事業は、大阪府堺市の臨海部に所在する産業廃棄物埋立処分場跡地において、植樹及び育樹活動（下枝除去、除草、クズ対策等）を実施し、森の維持管理を目的とする。また、これまで植樹した樹木が成長し森を形成している状況を活かし、市民が森と親しみ、楽しみ、体感する「森のミュージックカフェレストラン」を通じて、「植樹～育樹～森の利・活用」のあり方についても取り組む。主な活動は、植樹会、草刈り会及び草刈り作業後の「森のミュージックカフェレストラン」の実施である。

事業成果

今年度も森を育てる会（草刈り会）終了後、引き続いて市民が森とふれあい体感するイベントを実施した。今回は、「森のミュージックカフェレストラン」と称し、ミニコンサ

ートを中心に、大阪府（みどり推進室）や天王寺動物園からそれぞれの視点で生物多様性と植樹や育樹による森の創出の大切さの説明をいただいた。これにより、音楽を通じた人と森とのふれあいに加え、若い参加者をはじめ市民の方々に植樹活動による自然回復の大切さを感じていただいたと実感した。

事業をよく知る関係者の声

- ・天気が雨で残念だったが、森の中で聞く音楽は良かった。立派な森に育っており、今後の活用が楽しみである。（港湾関係者 代表者）

参加者の声

- ・久しぶりに参加したが、森になっているとは思わなかった。（70歳 男性）



5月に実施した草刈り会



機械を使用して除草



11月に実施した植樹祭



植樹祭に参加した皆さん

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.03ha
 植付本数：140本
 下刈面積：0.4ha
 イベント2回

参加者数

府内：110人
 府外：8人
 計：118人

樹種

アラカシ、ウラジロガシ、タブノキ、エゴノキ、クスノキほか

和木町協働の森づくり事業

山口県和木町



事業概要

本事業は、「豊かで美しい森林づくり」と「地球環境の保全」を目的とする。和木町里山研究会が主体となって地元企業のENEOS(株)麻里布製油所の社員や家族、OB及び和木町、山口県の職員ボランティアと協働で、和木町有林約1.5haの整備を2011年12月から継続している事業である。

事業成果

ヤマモモ林等の周辺雑木の伐採や下刈りを実施した結果、活力のある森林によみがえったと感じる。また、当事業に

参加した子どもたちにも森林整備やクリ拾いなどを実施していただき、身近に自然を感じる良い機会となった。

事業をよく知る関係者の声

- ・近年実施できていなかったが、久しぶりに当事業を実施できたことが良かった。継続して協働での森づくりを行い、活力ある森林を維持していければと思う。(50代職員)

参加者の声

- ・子どもにとっても森林にふれる機会が減ってきている中、当事業への参加は多角的に意義が大きい。(50代参加者)



栗園の下刈り



栗園でクリ拾い



ヤマモモ園の下刈り



参加者の皆さん

実績とりまとめ

作業内容

下刈り面積：3.0ha
除伐面積：1.5ha

参加者数

県内：55人
計：55人

さいたまの森林づくり支援事業

埼玉県越生町、ときがわ町、三芳町、小川町、桶川市、さいたま市、寄居町



事業概要

本県内において森林ボランティア体験事業（植樹、間伐、下刈り）を実施する企業や学校等に対し、安全に活動できるよう支援・指導する。これにより地球温暖化防止のための森林整備が進み国民参加の森林づくり運動に寄与することを目的とする。

事業成果

企業の森林ボランティア体験、学校等の体験学習の森林活動（つる切り・除伐・間伐等）の支援・指導を実施した。また、秩父で開催された全国植樹祭（令和7年5月25日）においては、当会も植樹指導を担当し、参加者に一層の森林整備が必要であることについて理解をいただくことができた。

事業をよく知る関係者の声

・猛暑の夏など温暖化が身に迫って感じられる昨今、都市



下刈り（入間市：さいたま緑の森の博物館）



小学生のつる切り・除伐体験（越生町）



小学生の間伐体験（越生町）



落葉掃き活動（三芳町）

部の企業がボランティア体験により森林整備活動を行うことは、参加者が森林の役割や地球温暖化防止について考える良い機会になったと思う。また、小学生が自然の中で森林作業を体験することは、大人になっても森林の働きや自然の大切さに興味を持ってもらえることにつながると思う。（緑推関係者）

参加者の声

- ・植樹した木のつるを取るのが大変だったけれど、早く育って花が咲くのが楽しみだ。（小学生）
- ・間伐した木の輪切りが良い記念になった。（小学生）
- ・6人グループで1本の木を間伐。力を合わせてロープを引いて木が倒れた時感動した。森林を育てるためには、いろいろな作業が必要であることを学んだ。（参加者）
- ・受け口の斜め切りと水平切りがなかなか合わず苦戦した。道具を使うのは難しい。（参加者）

実績とりまとめ

作業内容

下刈り面積：1.2ha
 除伐面積：3.3ha
 間伐面積：11ha
 森林調査：2.9ha
 落葉掃き

参加者数

県内：262人
 県外：37人
 計：299人

木曽川・やおつ水源の森づくり活動

岐阜県八百津町



事業概要

木曽川流域の住民に潤いと安らぎを与える水源の森を整備し、水源涵養機能の向上と、森林生態系や生物多様性への理解促進を図ることが目的である。主な活動は、名古屋駅前高層ビル群や奥三河の山々を一望できる海拔500mの高原を会場とし、下流域で生産活動を行うキンビール(株)名古屋工場の従業員や家族、流域住民や地元住民が協力して、サクラの間伐、遊歩道補修、下草刈りなどを行うとともに、間伐材を利用した箸づくり体験を実施する。

事業成果

春秋にキンビール(株)名古屋工場からの社員ボランティア、地元団体ボランティア、一般ボランティアによる下草刈り作業を実施した。業務委託による下草刈り、サクラの本数調整伐による水源の森の保全・整備に努めた。11月に

は、サクラの勉強会を実施し、参加者の皆さんに知識、技術を身につけてもらった。

事業をよく知る関係者の声

- ・今年度も年2回の環境整備活動とサクラの勉強会を実施することができて大変良かった。事業を継続していくことが大切であるため、キンビール社員の方にも多く参加していただけるように、引き続き事業を実施したい。(町内林業団体 50代男性)

参加者の声

- ・下草刈り作業が終了し、込み合ったサクラの間伐も行ったことで敷地内がきれいになった。水源の森へたくさんの方に来てもらいサクラの時期や緑いっぱいの自然を肌で感じてほしい。(町内住民ボランティア 60代男性)



下草刈り作業



公園内の机とベンチのメンテナンス



サクラの本数調整伐



伐ったサクラの枝等は現地でチップ化

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：8.0ha
間伐面積：1.5ha
その他：サクラの育成勉強会

参加者数

県内：132人
県外： 5人
計：137人

多様性を高めるモデルフォレストづくり「フォレスト21さがみの森」

神奈川県相模原市



事業概要

森と人の関係を再構築し森づくりの輪を広げ、持続可能な社会の基盤となる生態系豊かな森をつくりながら、活用する事業の展開を目指す。本事業を市民参加によるモデルとして発信し、国内における放置人工林をはじめとした森林への関心離れへの解決に結びつけたい。主な活動は、①生物多様性や地域の環境に配慮した森づくり活動、災害に強い森づくりの推進、②健全な森づくりのための知識・技術のスキルアップ、③初心者や子ども向けの森林環境教育や、森林サービス産業の創出に向けた活動、④森林環境の中で心身をリフレッシュできる活動など。

事業成果

ナラ枯れ被害拡大防止のための対策作業、補植、獣害対策ネットの設置、巣箱の設置などを行い、より多様性のあ

る森林へと着実に進めることができた。また、2024年秋に親子向けの体験イベントを、インターン大学生の企画・運営により実施し、親子やユース世代が多く参加したほか、マイクロソフト社の社会貢献プログラム受け入れをはじめとした企業向けの森林ワークショップの実績も増加した。

事業をよく知る関係者の声

- ・作業の技術指導者や生き物・植物観察の指導者など、参加者に教えながら活動できる人たちを育てていきたい。(長年のボランティア参加者)

参加者の声

- ・徹底された安全管理の実践から、多くを学んだ。ヒヤリハットの有無も確認されており、高い意識を感じた。ヤマビルやダニ対策は、初心者には安心だ。もう少し傾斜が緩やかだったら、と思った。(都内40代女性)



補植と獣害対策のネット設置



小鳥用の巣箱を設置



安全講習会での傷病者搬送法の実習



企業向けの森林ワークショップで道づくり

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.08ha
 植付本数：53本
 下刈面積：0.25ha
 除伐面積：0.34ha
 間伐本数：47本
 森林資源活用
 (イベントほか)：4回
 その他：獣害対策、ナラ枯れ対策ほか

参加者数

県内：124人
 県外：183人
 計：307人

樹種

モミジ、クヌギ

「キリン千歳水源の森」の整備事業

北海道千歳市



事業概要

平成19(2007)年に北海道森林管理局石狩森林管理署管内国有林に設定された「キリン千歳水源の森(法人の森)」を整備するための活動として、枝打ち、除伐等の作業を実施した。

事業成果

枝打ちが進み、植林された木の利用範囲が広まる説明ができた。また、キリンビール社員の参加経験者が増え、林内での安全作業の定着が進むことが期待される。なお、キリンビール社員との森林作業は、10月の休日に予定していたが悪天候のため11月の平日に延期した。平日ともあり、参加者はキリンビール(株)社員4名、技士会3名と最小の人員

での実施となったが、例年と同様の森林整備を行うことができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・元大学教授から屋内での森林整備の方法について助言があり、今後、悪天候時の代替メニューを検討する必要があると感じた。

参加者の声

- ・枝打ちの目的を理解し、初めての手鋸作業に真剣に取り組めた。(キリンビール社員)
- ・周辺に育っている樹木の名前や特徴の説明を聞き楽しく理解できた。(キリンビール社員)
- ・今後も継続して行ってほしい。(参加者)



キハダの樹名板を設置



枝打ち作業



エンジュの木でコースターづくり



参加した皆さん

実績とりまとめ

作業内容

除伐面積：0.02ha
枝打面積：0.04ha
通勤路整備：3.5km

参加者数

道内：7人
計：7人

「安曇野エア・ウォーターの森」森林整備事業

長野県安曇野市



事業概要

安曇野市内での森林保全に貢献するために、市役所と森づくり協定を締結し森林整備を実施する。本事業の全体面積は1haであり、令和6年度の実施は、5年計画の4年目に当たる。具体的には、以下の事業を実施した。①植栽：0.25haにミズナラ500本を植栽、②下刈り・藪刈り：1.05haを対象に実施。

事業成果

前年に実施した地拵えエリアに500本の植栽を実施。併せて、過去の植栽地の下刈りを実施し、森林の更新を促進することができた。また、森づくりの継続性の大切さを参加者に体感してもらうことができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・地元に縁の深い企業がその地域に根ざして企業の森に参画していることは、地域行政として感謝申し上げたい。また継続が決まったことがうれしく思う。(自治体関係者)
- ・植栽後の管理も適切に行われていることから、苗木は順調に生育している。再造林化の見本とも言えるのではないか。(林業士)

参加者の声

- ・斜面での草刈りは体力的にはキツかったが、達成感が感じられて良かった。
- ・地元で貢献していることは、会社として良いことだと思う。
- ・また来年も参加したい。



下刈り・ポール立ての作業 (作業委託)



下刈り (ボランティア活動)



植栽 (ボランティア活動)



安曇野エア・ウォーターの森 (全景)

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.25ha
植付本数：500本
下刈面積：1.05ha

参加者数

計：72人

樹種

ミズナラ

どんぐりの森整備と森林空間利用の促進

茨城県常陸太田市



事業概要

どんぐりの森において、森の教室で育てたどんぐりや協会で育成した苗木等を植栽・育成するエリアと、子どもたちの学びや遊び、休養の場となる共用広場を造成した。また、造成地は、観光牧場跡地であることから、植栽樹木の適地適木を見極めるための仮植地及び苗畑を整備するとともに、緑の少年団によるどんぐり植えなどを通じて苗木の育成を行っている。

事業成果

長らく利用されていなかった観光牧場跡地は、灌木やバラ科植物が繁茂していたが、本事業による下刈りにより、眺望に優れたなだらかな休養広場として活用できる環境が整

った。今後の植栽に向けて苗畑を設け、育苗を行っている。また、「緑の少年団交流集会」において、緑の少年団とどんぐり植えを実施したところ、多くの子どもたちから、「また来たい」との声が寄せられた。次年度の植樹祭には、「森の教室」実施園の子どもたち約100名と、森林の恩恵を受ける農林漁業15団体が参加を表明している。

事業をよく知る関係者の声

- ・県内でも眺望に優れた植樹環境であり、今後も積極的な拡大が望まれる。(隣接する森林で活動する企業代表者)

参加者の声

- ・緑の少年団交流集会で、どんぐりの実を植えた。どんぐりが大きくなったら、見に来たい。(緑の少年団員)



灌木やバラ科植物が繁茂していた場所を大型刈払機で下刈り作業



どんぐり植えの説明(緑の少年団交流集会)



どんぐりを植えて苗畑造成(緑の少年団交流集会)



どんぐりの苗の移植(苗畑)

実績とりまとめ

作業内容

下刈り面積：1.61ha
その他：どんぐり植え・移植、交流会

参加者数

県内：56人
計：56人

日本曹達グループの森づくり事業

新潟県上越市



事業概要

日本曹達グループが起業してから100年を迎え、起業の地である新潟県上越地域の「くわどり市民の森」において、新潟県民・上越市民に親しまれる森づくり活動を通じ地域に貢献する。事業開始から5年目となる本年度は、計画に基づき、森林整備（下刈り・除伐）、モミジ・ウワミズザクラの植樹、3か所の観察サイトの整備及び親水性森林整備を実施した。

事業成果

森林整備（下刈りと除伐）と親水性森林整備及びその観察サイト（駐車場兼務）の整備ができた。



下刈り



溪流沿いの樹木の枝打ち



手作業で石組み



駐車場兼用観察サイト整備

事業をよく知る関係者の声

- ・森林整備を推進することができ、とてもありがたい。今後も協議会で意見交換しながら、市民の森として愛されるよう、現地を踏まえた森林整備を推進してほしい。（上越市農林水産整備課、市民の森指定管理者NPO法人職員）
- ・技術や経験を通じて地域に貢献できることを誇りに思う。（日本曹達グループの森づくり推進協議会構成員、くびきの森林組合、造園会社ほか）

参加者の声

- ・日本曹達グループの森づくりの社員による自主的な下刈りが今年初めて実施された。上越市民から期待を寄せる声があった。今後も継続して森づくり活動に参加していきたい。（日本曹達二本木工場社員）

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.02ha
 植付本数：61本
 下刈面積：0.5ha
 除伐面積：2.0ha

参加者数

県内：150人
 県外：1人
 計：151人

樹種

モミジ、ウワミズザクラ

「ぜんどこMCJの森」づくり

長野県長野市



事業概要

目的は、長野市七二会岩草地区の小高い丘にある荒廃した森林を、当団体、近隣住民、(株)MCJとの協働により、北アルプスを一望できる「ぜんどこMCJの森」として再生し、森づくりを通して、森に学び、森で楽しむ場を提供するとともに、里山の保全と地域社会への貢献をすることである。主な活動は以下のとおり。①森林整備活動、②里山講座(木工ワークショップ、森林整備体験会)、③森カフェの実施。

事業成果

今年度は北側エリアを除きスギの伐採を進め、イベントエリアの約8割を整備した。伐採木の一部は搬出し、東側道路沿いの支障木・危険木は適切に処理した。里山講座では、子ども向け林業体験及び近隣住民向け木工ワークショ

ップを実施し、製材体験とベンチづくりが好評を得た。

事業をよく知る関係者の声

- ・本事業3年目を終え、伐採により暗い山の環境が改善し、将来の公園像が見え始めた。また、ウインチの操作技術が向上し、今後も危険木を安全に処理することができる。伐採を進める一方で、下草刈りの作業が増えたが、小型の自走式草刈機の導入により、労力の軽減できることを期待する。さらに伐倒木へのキノコ植菌や地域資源の活用により、多くの人が訪れる森づくりを進めたい。(60代男性会員)

参加者の声

- ・ぜんどこの森を登ると頂上からは北アルプスが一望できた。ジブリの世界のような森の中で火を囲んで楽しいひと時を過ごせた。(森カフェ参加 50代女性)
- ・焚火は最初うまく点火できなかったが、教えてもらい成功し面白かった。椅子は最後まで完成させることができて良かった。木の伐倒もみんなで協力し、順番に力を合わせて安全に行うことができた。(里山講座参加 小学生)



伐採した木材で東屋造り



玉切り作業



スギの丸太から板を製材



子どもたち対象の里山講座で焚火づくり体験

実績とりまとめ

作業内容

危険木処理：10本
下刈面積：0.5ha
除伐面積：0.3ha
荒廃農地整備：0.2ha
森林資源活用(枝葉チップ化、植菌ほか)：26日
その他：里山講座、森カフェ

参加者数

県内：171人
計：171人

「大阪府ENEOS友好の森」森林整備事業

大阪府太子町



事業概要

手入れが行き届いていなかった私有林（スギ・ヒノキ）の間伐作業を行う。その際、専門家の指導を受け、安全面に留意しながらENEOS(株)社員が協力し合い、間伐の方法、道具の扱い方を覚える。また、森林を手入れする意義を学び、同時に子ども向けに間伐材を用いた木工教室で、地域の健全な森林の育成の意義を学んでもらう。

事業成果

今年度も間伐体験の実施を予定していたが、参加企業による安全意識の高まりから、現地の地形・作業環境等を総合的に判断し、参加者の安全を最優先に中止を決定した。これにより、自然体験活動におけるリスクアセスメントの重要性を改めて確認することができ、安全管理体制の見直しと強化の必要性を再認識することができた。次年度以降の

計画において安全対策をより充実させる方針が明確になった。

事業をよく知る関係者の声

- ・山の作業に慣れていない一般参加者の方にとって、特に傾斜地での間伐は想像以上に危険が伴う。私たち指導員にとっては“当たり前”と感じる注意点も、参加者には伝わりづらい場面があり、実際の現場では足場の不安定さや伐倒時の挙動に対する理解にギャップを感じた。
- ・今回は安全を最優先に判断し、体験を中止することとなったが、これをきっかけに、参加者と私たち専門職の間にある『山仕事に対する感覚の違い』をどう埋めるかが今後の大きな課題だと実感した。次回以降は、安全を確保しながらも“山を知る”ことができるような工夫を重ね、より良い体験の場づくりを目指す。(40代・指導員)



前年度の間伐体験活動の様子



前年度の伐倒後の玉切り作業の様子

三草山ゼフィルスの森における防鹿柵設置

大阪府能勢町



事業概要

大阪府緑地環境保全地域に指定されている三草山ゼフィルスの森において、シカによる食害を受けた植生を回復させるため、3年かけて指定地域1448haのほぼ全域の周囲に防鹿柵を設置する。今年度は西側エリアにおいて総延長距離約560mに金網フェンスを設置した。

事業成果

三草山ゼフィルスの森西側に約560mの金属製フェンスを設置した。設置作業のうち、特に12月20日には「防鹿柵設置大会」と銘打って、広く一般の方にも呼び掛け、18名で設置作業に取り組んだ。

事業をよく知る関係者の声

- ・設置作業は、慣れているメンバーが中心となっていて行っているため、順調に行うことができた。現地への金属製フェンス資材の小運搬が重労働で、運搬車を活用して運べる場所もあるが、最後は人力なので、他の方法も検討いただきたい。(NPO法人日本森林ボランティア協会)

参加者の声

- ・当日は資材運搬、段フェンス張り、上下左右結束などの作業を行ったが、自然の中でシカ柵設置作業ができて良かった。また参加したい。(防鹿柵設置大会参加者)



設置ルート選定のため計測



防鹿柵設置作業



山腹崩壊地への防鹿柵設置



防鹿柵設置状況確認

実績とりまとめ

作業内容

防鹿柵設置：560m

参加者数

府内：145人

府外： 8人

計：153人

木曾川・やおつ水源の森づくり活動

岐阜県八百津町



事業概要

本事業は、木曾川流域に暮らす住民に潤いと安らぎをもたらす自然豊かな水源の森を整備し、水源涵養機能の充実を図るとともに、森林生態系や生物多様性について学ぶことを目的として実施する。会場は、名古屋駅前高層ビル群や奥三河の山々を一望できる海拔500mの高原とし、下流域で生産活動を行うキリンビール(株)名古屋工場の従業員とその家族、流域住民及び地元住民が協力して活動を行う。主な活動は以下のとおり。①サクラの間伐、②地域内の遊歩道の補修作業、③森林整備(下刈り・間伐)④間伐材を利用した箸づくり体験など。

事業成果

春秋にキリンビール(株)名古屋工場からの社員ボランティア、地元団体ボランティア、一般ボランティアによる下刈り作業を実施した。業務委託による下刈り、サクラの本数

調整伐による水源の森の保全、整備に努めた。11月には、サクラの勉強会を実施し、参加者の皆さんに知識、技術を身につけてもらった。

事業をよく知る関係者の声

- ・今年度も年2回の環境整備活動とサクラの勉強会を実施することができた。事業を継続していくことが大切であるため、キリンビールの社員の方にも多く参加していただけるように、引き続いて事業を実施したい。(町内林業団体50代男性)

参加者の声

- ・下刈り作業が終了し、込み合ったサクラの間伐も実施したことにより、敷地内がきれいになった。水源の森へたくさんの方に来てもらいサクラの時期や緑いっぱいの自然を肌で感じてほしい。(町内住民ボランティア60代男性)



サクラを植樹



植樹木に支柱を設置



下刈り作業準備で草刈り機のメンテナンス



下刈り作業

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：1.5ha
植付本数：18本
下刈面積：7.0ha
その他：サクラの勉強会

参加者数

県内：85人
県外：16人
計：101人

樹種

サクラ

東日本大震災の教訓を伝える桜の植樹

岩手県陸前高田市



事業概要

東日本大震災の教訓を後世に伝えるため、岩手県陸前高田市内の津波最大到達地点に沿ってサクラを植樹し、自然災害による人的被害の軽減を目指した。市内約170kmにわたり10m間隔で1万7,000本の植樹を長期目標とし、震災経験のない次世代や全国の共感者とともに植樹・育成管理活動を実施した。今年度は春の植樹会(3月)、学校植樹(3月・11~12月)、秋の植樹会(11~12月)、夏期の下草刈りボランティアを実施した。

事業成果

春の植樹会・学校植樹・秋の植樹会を合わせて124本のサクラを植樹した。事業期間末時点の累計植樹本数は2,324本、累計参加者数は9,597名となった。また、夏期の下草刈りボランティアには162名が参加した。植樹に比べ参加者が集まりにくい育成管理活動においても、多くの支援を得ることができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・震災から時間が経っていく中で、遠くから足を運んでくれる人がいることがありがたい。(植樹地地権者)
- ・サクラが咲くのが何より楽しみだ。植えた人にも見てもらえたらうれしい。(植樹地地権者)
- ・震災以降に生まれた子どもたちが震災にふれるきっかけになっている。講演の機会が学びになっていると思う。(連携校教員)

参加者の声

- ・事務局の方が震災経験者で、当時の貴重なお話を聞くことができ、風化させてはならないことを改めて感じた。どんな小さなことでも復興支援や風化させない取り組みに関与していきたい。(参加企業社員 50代女性)
- ・二度と多くの犠牲者を出したくない、という気持ちが伝わってきた。少しでも多くの方に伝えていきたい。(個人参加 40代男性)



小学校で震災や活動に関する講演会を実施



小学校植樹会の様子



下草刈り(育成管理)



サクラの支柱交換及び生育状況の確認(育成管理)

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：124本
その他：育成管理(下草刈り)

参加者数

県内：273人
県外：640人
計：913人

樹種

オオヤマザクラ、エドヒガン、
ベニシダレザクラ、カワツザ
クラ、ヤエザクラほか

3.11 復活の森づくり～2025年千葉県山武市蓮沼殿下海岸林再生事業(下草刈り)

千葉県山武市



事業概要

津波被害によって失われた海岸林の機能回復を目指し、県や市、地元や都市の住民、企業ボランティア（伊藤忠丸紅鉄鋼(株)・東京ガス(株)）との連携・協力による市民参加型の森林整備事業を行った。活動は、千葉県山武市蓮沼殿下海岸防災林における津波被害林の再生を目的に、以下2つのエリア、合計1.0haを対象に下刈りを2回実施した。

エリア1：2011年から14年計画で進めており、今年で最終年。2022年春の植林で新規植林を終え、2026年まで下刈り等の保育を継続（0.2ha）。

エリア2：2023～2024年春に植林を実施。面積は0.8ha。

事業成果

昨年に続き夏季の猛暑が厳しく、下刈り時期の見直しが

必要であると判断している。下刈りを行うと、苗木に日陰をつくっていた植生がなくなり、強い日差しの影響を受けて枯損するおそれがある。そのため、春の終わりから初夏にかけて1回目の下刈りを行い、夏の終わり頃に2回目を実施する方法が有効であるとの新たな知見が得られた。

事業をよく知る関係者の声

- ・植えたクロマツは順調に育っており、順調な進捗である。あと数年で下刈りの必要がなくなるので、それまで活動を頑張ってもらいたい。（林業事業体）

参加者の声

- ・カムチャッカ地震のニュースを見て、海岸林のことを思い出した。少しでも多くのお役に立てるように、ボランティアを頑張りたい。（市民ボランティア）



6月の下刈り活動の様子



8月の下刈り活動の様子



9月の下刈り活動の様子



下刈りに参加された企業の皆さん

実績とりまとめ

作業内容

下刈り面積：延べ2.0ha

参加者数

県内：42人

県外：165人

計：207人

3.11 復活の森づくり～2025年千葉県一宮町東浪見海岸林再生事業(下草刈り)

千葉県一宮町



事業概要

オリンピック終了後の海岸林造成の早期達成のため、2022年4月に植栽したエリア、8m四方の竹箦・150区画、0.96haに植栽した7,350本の苗木を対象に下刈りを実施した。委託作業として、海岸林所有者の千葉県の森づくり計画に応じて2度刈り（7月中旬に1回、9月下旬に1回）をし、竹箦外周の下刈りも実施した。下刈りの総面積は約2.12haで、そのうち企業協働であるリコーリース(株)とは、約0.1ha(16区画)を対象に下刈りを実施した。

事業成果

酷暑による苗木への影響を鑑みながら雑草と苗木の生長の競争をコントロールすることができている。小まめな観察が必要であるが、苗木の生長度合いを円滑に高めること

ができた。また、協働企業先からのボランティア参加が継続的なものとなり、資金だけでなく労力提供も加わったことで、募金事業との関係性が強くなった。

事業をよく知る関係者の声

- ・小まめな育林に感謝申し上げたい。(千葉県北部林業事務所担当者)
- ・順調に生育している。近年の酷暑を踏まえ、下刈り作業の実施方法については今後の検討課題としたい。本事業は海岸林の公益的機能の向上に寄与している活動である。(森林作業実施専門会社)

参加者の声

- ・事故もなく無事に終了し安堵している。来年も実施予定である。(協働企業担当者)



下刈り作業の様子



竹箦外周の下刈り



下刈り作業前



下刈り作業後

実績とりまとめ

作業内容
下刈面積：2.12ha
参加者数
県外：51人
計：51人

「岩沼・荒浜潮除須賀松の森」保育事業

宮城県岩沼市、仙台市



事業概要

東日本大震災により壊滅的な被害を受けた仙台市沿岸域の海岸防災林の再生に向けて、地域住民などとの協働により保育活動を行いながら、失った「みどり」の重要性やその働きなどへの理解と関心を深めてもらう。そして、海岸防災林再生に対する気運の醸成と、「みどりの文化」の普及啓発を図る。

事業成果

昨年に引き続き、児童や生徒、企業の協働による参加に重点を置いた。子どもたちはつる取りや手鋸による枝落とし、本数調整伐に意欲的に取り組み、好評であった。この活動に全面的に協力いただいた団体が、被災地の自然環境回復状況の観察やビーチコーミングなど工夫を凝らした体験学習を行っていることから、引率教員からは「充実した活

動」と高い評価を得ており、継続実施の要望が寄せられている。

事業をよく知る関係者の声

- ・先日の荒浜海岸公園の活動では、大変お世話になった。子どもたちは、防災林の手入れや砂浜の清掃活動、カニ釣りなど自然にふれる活動を通じて、多くのことを学ぶことができた。貴重な体験となったものと考えている。感謝申し上げます。(仙台市立小学校3学年担任)

参加者の声

- ・クロマツを育てるのにクズを取らないとクロマツが育たないことが分かった。(仙台市立小学校3年生)
- ・思った以上にマツが大きく、葉もたくさんあって驚いた。クズが取れなくて苦戦した。枝落としの時に、手鋸を初めて使ったので緊張した。(仙台市立小学校4年生)



小学生を対象とした「次代を担う子どもたちの海岸防災林保育活動」



高校生を対象とした「次代を担う青少年の海岸防災林保育活動」



企業ほか対象とした「次代へつなげよう!企業協働による海岸防災林保育活動」



親子を対象とした「次代へつなげよう!海岸防災林・親子で保育活動」

実績とりまとめ

作業内容

保育活動：約5.0ha
その他：自然環境観察、体験活動ほか

参加者数

県内：1,025人
計：1,025人

「ケロンの小さな村」子ども森の学校の再建・整備

石川県能登町



事業概要

令和6年に発生した「能登半島地震」及び「能登豪雨」により地割れや崖崩れなどの甚大な被害を受けた「ケロンの森」を復旧し、子どもたちの自然体験や環境教育のための「森の学校」を早期に再開することが目的である。主な活動は、①地割れや崖崩れを自然素材で復旧、②荒廃したスギ林やアテ林を間伐・枝打ちにより再生、③枯損木や倒木の処理、④散策路の設置、⑤フクロウの巣箱の設置、⑥サクラやモミジを植樹。

事業成果

機材の購入と専門家の指導により、安全確保体制の充実と計画的な活動展開が可能となり、復旧を加速することができた。さらに、子どもたちや企業人、大学生、一般市民等の参加が広がり、「みんなでつくる森の学校」への転換点となった。また、ボランティア参加者同士の横のネットワークづくりにもつながり、交流の輪が広がっている。

事業をよく知る関係者の声

- ・町の宝、能登の宝である「子ども森の学校」が閉鎖されているのは地域の損失だ。早く復旧してほしい。(町役場職員 50代)
- ・大学生の息子が小学3年生の時に不登校となったが、「子ども森の学校」に救われた。我が家にとって森の学校は大切な場所だ。再建を祈っている。(保護者 40代)

参加者の声

- ・ひどい地割れや崖崩れでびっくりした。小枝や葉っぱを埋めて直せてうれしい。(小学4年男子)
- ・崖崩れ復旧における杭打ち作業では、掛矢が重く苦労もあったが、汗を流しながら作業を終えた達成感は大きかった。(会社員 40代男性)
- ・暗かった森が森林整備で森に入りやすくなった。みんな喜ぶと思う。(定年退職 60代男性)



枝打ち作業



大苗のサクラやモミジを植樹



地割れに草や枝を入れて復旧



崖崩れ復旧における杭打ち作業

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：1.0ha
 植付本数：20本
 復旧活動：1.5ha
 道づくり：約100m
 下刈面積：1.0ha
 除伐面積：1.0ha
 枝打面積：1.0ha
 森林資源活用：1.0ha
 巣箱製造設置：3個

参加者数

県内：90人
 県外：114人
 計：204人

樹種

サクラ、モミジ

苗木づくりからはじめる「能登・復興の森づくり」

石川県輪島市



事業概要

石川県では、能登震災・豪雨災の復興に向け、能登の里山・里海を次世代に継承する取り組みを行っている。本事業では、アテコンテナ苗の生産が「能登・復興の森づくり」に向けた第一歩となるよう、木アテ（能登ヒバ）の発祥の地である輪島市門前町浦上地区で、仮設住宅に居住する方々を中心に、アテ苗木を生産する取り組みを実施する。

事業成果

能登半島地震・豪雨災害で被災した輪島市門前町浦上地区の仮設住宅の高齢者や女性を中心のグループで、穂づくり、仮植、コンテナへの移植、散水管理などを行った。軽微な作業のため、お互いの交流の場として和やかな雰囲気の中、取り組みがなされた。また、この取り組みを支援する団体もこの作業に加わるなど、外部との交流を深めることができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・仮設住宅の皆さんが集まり、和気あいあいとしたすてきなグループが誕生した。お互いに何気ない会話を交わすことで孤独感が和らぎ、土や緑に触れるひとときが、日々のストレスを優しく解きほぐしてくれているようだ。体に無理のない軽作業を通じて、心も体も健やかに過ごされている様子を拝見し、本当に素晴らしい取り組みだと感じている。(浦上公民館長)

参加者の声

- ・話したことがなかった参加者の方と話しができて良かった。
- ・作業が簡単で、楽に体も動かせた。
- ・苗木づくりを通じて、緑や土に親しみながら自然とのふれあいを深めることができ、貴重な体験となった。



アテの母樹の伐倒と枝切り（アテ苗づくり）



一晩浸水したさし穂を鹿沼土へ仮植（アテ苗づくり）



培養土を詰めながらコンテナ容器にアテ苗を丁寧に移植（アテ苗づくり）



緑の少年団が育成したコナラの苗木を植樹（植樹祭）

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：100本
さし穂仮植：3,800本
アテコンテナ苗移植：400本

参加者数

県内：122人
県外：17人
計：139人

樹種

能登ヒバ、コナラ

広葉樹カエデ広がる豊かな森の未来予想図

北海道当別町



事業概要

森林に人が集まる仕組みづくりを推進するため、多面的機能を有する森林を守り育て、効率的なCO₂吸収を図るための適切な森林管理を行い、森づくりを進める。その過程において、人材育成や普及啓発にも取り組み、地域住民や学生と共に「人と自然が調和する、持続可能で再生可能な森林」の実現を目指し、豊かな森を誇りに思える地域サポーターや、故郷への思いを持つサポーターの育成を図る。

事業成果

行政と協力した取り組みの基盤を築きつつある。活動には地元町民に加え町外からの参加者も増え、森林活動への関心が地域を越えて広がった。地元高校生が映像大会で本活動を取り上げ、若い世代の学びや発信の場となった。各種イベントを通じ、地域住民や郊外からの参加も多く、冬季の森林への関心も高まった。これらの成果は、森林保全と地域の学び・交流の仕組みづくりに寄与している。

事業をよく知る関係者の声

- ・屋外でのイベント開催は天候に左右されるため、対処方法をあらかじめ検討する必要がある。足が不自由な方への新たな対応として、森までの移動をよりスムーズにする工夫が求められる。親子連れや地元の住民が多く参加してくれたことは、地域に根差した活動として大きな成果となった。(イベント準備関係者)

参加者の声

- ・山で馬が働く姿を初めて見て、とても新鮮な体験だった。(郊外からの参加者)
- ・メープルシロップが森からの恵みであることを知り、自然とのつながりを感じられた。(郊外からの参加者)
- ・森の手入れには多くの人の力が必要だと実感した。
- ・森にはまだまだたくさんの可能性があることを学んだ。(近郊参加者)



作業道橋修繕



除伐作業



樹液採取



イベントでメープル工房の見学

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：0.2ha
 除伐面積：1.2ha
 森林資源活用：薪4m³、樹液3,345ℓ
 作業道修理：2,100m
 イベント：8回

参加者数

道内：494人
 道外：21人
 計：515人

森の笠地蔵プロジェクト2024

岩手県遠野市



事業概要

間伐材の薪利用の普及拡大と、薪を自力で調達するのが困難となっている一人暮らしの高齢者の支援を目的とする。主な活動は以下のとおり。①森林ボランティアと間伐・造材・集材・搬出・薪づくり及び薪棚整備、②自力で薪調達困難な高齢者の調査（遠野市社会福祉協議会と協力して行う）、③自力で薪調達困難な高齢者の家に薪を無料で配達、④間伐や薪づくり、炭焼き、木工の体験会、⑤マスコミやインターネットで情報発信。

事業成果

本事業に参加する市民が着実に増えてきている。今年度は、高齢者福祉施設（デイサービス）からも受け入れを行い、薪割りや丸太切り、炭焼きなどの山作業体験を実施した。併せて、間伐材を製材して木工体験会を行い、作品展を市内ショッピングセンターで開催することで、木材の魅力や間

伐材の資源化についての啓発につなげた。

事業をよく知る関係者の声

- ・無料で高齢者宅に薪を届けているが、運賃くらいは支払ってもらおう方が高齢者も依頼しやすいのではないか。（遠野市職員）
- ・高齢者や生活困窮者の薪需要に関する情報は、個人情報保護の観点から公開が難しく、協力できることにも限りがある。（社会福祉協議会職員）

参加者の声

- ・普段はデスクワークしかやっていないので、間伐の体験をしてみて、森林の気持ち良さを実感できたと同時に、自分の体力の無さを痛感した。（40代女性）
- ・初めて薪づくりに参加した。スタッフや先輩方に薪割り方法を教えていただき、薪割りを安全にできるようになった。最初のうちは翌日が筋肉痛となった。（30代男性）



間伐体験における掛かり木の指導



造材した材を林内作業車で集材



間伐した木を使用した木工体験会



薪づくり

実績とりまとめ

作業内容

間伐面積：11.0ha
 森林資源活用（薪づくり、炭焼きほか）：35回
 薪配達：18回
 （軽トラック43台分）

参加者数

県内：615人
 県外：10人
 計：625人

女川町出島「里島創生」事業

宮城県女川町



事業概要

人口減少により荒れてしまった女川町の離島出島の里山・里海整備を「里島創生」と定義し、島全体を風光明媚で多様な生物が息づく環境にすることを目的とする。主な活動は以下のとおり。①所有者の承認を得た人工林の間伐、枝払い、倒木処理等の整備、②地権者との協議による整備地域の拡大(島全体)、③間伐材を活用したログハウス建築支援(ログハウスづくりは地域おこし協力隊の事業)、④海に流れ込む沢の整備。

事業成果

森林整備のプロによる研修の成果として、配石遺構周辺の人工林の間伐を進めることができた。また、その間伐材を利用したログハウスも完成し、地域おこし協力隊が本格

的なサウナとして運用している。

事業をよく知る関係者の声

- ・出島大橋が開通(令和6年12月19日)してから多くの観光客が訪れ、「キレイな島!」と言ってくれるのがうれしい。高齢者が多いため、地域おこし協力隊など、若い移住者が増えることを期待している。(行政区長)

参加者の声

- ・草刈りの度に、美しい景観を取り戻せることはうれしい。ただ、最終的にどのような着地点があるのかが見えにくい。毎回雑草との戦いを繰り返すだけでは、持続可能な取り組みとは言えないのではないかと。(関東地方から複数回参加した高齢ボランティア)



出島配石遺構周辺の下草刈り



出島配石遺構周辺への彼岸花、ジャガの植栽



森に不法投棄された粗大ゴミの回収



間伐材を利用したログハウス

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：1.0ha
 除伐面積：1.0ha
 間伐面積：1.0ha
 森林資源活用：間伐材を活用したログハウスづくり
 その他：不法投棄粗大ゴミ回収、ヒガンバナ、ジャガの植栽

参加者数

県内：86人
 県外：11人
 計：97人

北上川の上下流を結ぶ緑の再生活動

岩手県八幡平市



事業概要

本事業の目的は、旧松尾鉱山跡地において、植樹・育樹活動を行ってきたものの植生の回復が遅れている場所に、新たに植樹を行い、緑の再生を目指すことである。主な活動は、①表土の一部を掘削し、土壌改良を施した上で、八幡平の自生種でもあるナナカマドとアキグミを植樹、②高校生に事前学習として森林の役割やその保全の意義について伝え、活動協力への意欲を高める。

事業成果

今年度は植樹を実施した。パーク堆肥と黒土を表土に混ぜることで土壌改良（1m×1mの区画を計210か所）を施し、八幡平での自生種でもあるナナカマド420本とアキグミ70本を計0.13haに延べ393人で植樹。予算の都合や、資材や人件費急騰により再見積りもあり、当初の事業規模を3割

ほど縮小した上で実施した。支出は増えたものの、無事終了した。

事業をよく知る関係者の声

- ・団体参加者（高校生）は、植樹後の苗木の生長に手応えを感じていて、今回の植樹後の管理（育樹）や、すでに5年以上経っている場所での育樹へも関心を示している。そのため、2025年度は、2009～2011年度植樹地（2018年度に一部を育樹）を対象とした活動を企画したい。

参加者の声

- ・団体参加の高校教諭から、緑の再生には植樹だけでなく維持管理に関わる育樹活動も大切であることを、近隣で実施した過去の実績も踏まえ体験学習できることを、評価いただいた。



掘削作業後とパーク堆肥ほか



高校生による植樹の様子



植樹の完成と防風柵



植樹地の様子（ドローン空撮）

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.13ha
 植付本数：490本
 下刈面積：0.17ha
 その他：事前学習会

参加者数

県内：136人
 県外：541人
 計：677人

樹種

ナナカマド、アキグミ

阿武隈南部里山共生—活性化事業

福島県鮫川村



事業概要

福島県鮫川村葉貫地区は、高齢化が進み山林が荒れている現状である。県内外の参加者が山林の環境整備を進めることにより、山林も人も良好に共生できるよう持続可能な活動を広めていくことを目的とする。活動は以下のとおり。
①間伐、②間伐した材を有効利用（薪、チップ）、③下刈り、④山林の環境で「ネイチャーゲーム」の実施、⑤松ぼっくりのクラフトなど。

事業成果

本事業を実施できたことで、山林整備の活動がさらに進み、プログラムに参加した子どもから大人まで、一人ひとりが関わり、実践する機会となった。山林に入って整備活動やクラフトなどの非日常の時間を共有することで、本事業を通じて得られた知見と成果は、今後の里山整備活動の礎となり、地域内外の連携促進にも寄与すると確信している。

事業をよく知る関係者の声

・自分たちが里山整備に関わることができて、人の手が入って初めてこの環境が維持・保全できているんだ、という意識になった。一人では大変な作業もみんなで力を合わせることで楽しくでき、また、効率よく作業を進めることができた。学校では学べない特別な授業がここにはあった。（星槎国際高等学校 引率の先生）

参加者の声

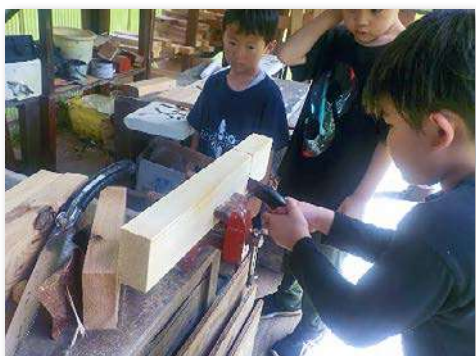
・里山整備を体験した。始める前はここが本当にきれいに整備できるか全く分からなかったけど、みんなで協力して作業を進めていくと山が生き返ったようにきれいになって、僕の心も達成感でいっぱいになった。（高校1年 男子）
・薪割りが大好きになった。（小学5年 男子）



山の荒れ地再生整備



薪割り体験



木工クラフトに集中する子どもたち



木材を搬出する里山キッズボランティア

実績とりまとめ

作業内容

下刈り面積：2.5ha
除伐面積：2.1ha
間伐面積：2.0ha
森林資源活用：薪づくり
その他：ネイチャーゲーム、クラフト

参加者数

県内：178人
県外：93人
計：271人

間伐による森づくり

茨城県つくば市



事業概要

手入れの行き届いていない森林を対象に、光が差し込む明るい森に整備し、林床環境を整えるとともに、光合成を促す健康な森を育てることを目的とし、下刈りと間伐、植樹等を実施する。

事業成果

今年度の事業は、昨年度と同様に間伐と下刈り、竹林の除伐を実施した。これまでに出土した小枝やタケなどをチップパーで処理し、森をきれいにする事ができた。スギ、ヒノ

キ、カシの材は搬出してリサイクル事業所に無償提供した。

事業をよく知る関係者の声

- ・参加者の高齢化は、活動機会の減少の一因となる。加えて、森林保全活動を支えるのは参加者が増えることである。そのため、市の広報誌などを通じてボランティア体験講習会などを引き続き行い、新たな人材を育成する。

参加者の声

- ・間伐材を薪用に自己消費できるので良かった。(70代男性)



下刈り



間伐



シラカシの大木を伐採



小枝をチップにして、林道に敷設

実績とりまとめ

作業内容

下刈り面積：1.4ha
 間伐面積：0.35ha
 森林資源活用：チップ
 その他：チップパー作業

参加者数

県内：76人
 県外：33人
 計：109人

次世代に繋ぐ「協力隊の森」事業

茨城県常陸太田市



事業概要

本活動の目的は、茨城県北部山地の植林地域において、絶滅危惧種や希少種が生息している現状を踏まえ、郷土樹種の植栽を通して生物多様性保全を推進することにある。具体的に、①常陸太田市の天然記念物であるサトミノイワナの生息環境を守るため、落葉広葉樹の植樹によって土壌のフルボ酸鉄を育成し、養魚環境の向上を図る。②近年生息が確認されていない絶滅危惧種のチャマダラセセリの保護・保全のために、食草であるキジムシロやミツバツグリの保育環境を促す。③多様な植生づくりの植樹活動により、絶滅危惧種の生態環境の改善に寄与する。

事業成果

チャマダラセセリの食草となるキジムシロやミツバツグリの保育を行いながら、漸次移行するエコトーンによる水陸域に多様な植生や生物が生息するようになった。また、

地元の中学校の生徒と教職員による植樹も行われるようになった。こうした長期的な視点に基づいた生物多様性保全への取り組みは、教育学術関係者からも高い評価を得ている。

事業をよく知る関係者の声

- ・生物多様性の大切さについて、幾多の動植物が共生できる環境づくりが重要であると理解した。(OV会)
- ・今後も地元の中学生と協力した植林活動を、環境教育の一環として継続していきたい。(OV会)
- ・モノトーン植生ではなく、様々な生態が連なり合うエコトーン植生が生物多様性にとって不可欠であることを実感できた。(中学生)
- ・植樹活動を通じて地元にも数多くの希少種が存在していることも広く認識された。(中学校教頭)
- ・最近では植林地域周辺でクマの目撃例もあることから、活動時の安全対策に十分配慮したい。(地元住民)



「協力隊の森」OV・関係者との植樹風景



地元中学校の生徒・教職員ら総勢34名と植樹



下刈り作業の前後の様子



地寄せ作業

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.2ha
 植付本数：200本
 下刈面積：0.4ha
 除伐面積：0.2ha
 その他：実験区での測樹

参加者数

県内：47人
 県外：2人
 計：49人

樹種

ブナ、ミズナラ、エゴノキ、
 キハダ、トチノキほか

桐生川の水源を守り続けるための森づくり

群馬県桐生市



事業概要

水源地域である桐生川源流の約5.9haの森林を、市民参加を得ながら、社会環境のニーズにあった森づくりを実施する。具体的には、①溪畔林造成、②シカ食害広葉樹の再生、③雪害スギ林の広葉樹化、④主伐期スギ林の樹種転換の4つの区画に分け5年計画で取り組む。今年度は、シカ食害で枯れた山頂部のコナラ林の再生を目指して、獣害対策ネットの敷設、市民と植樹活動を実施した。

事業成果

2024年秋植えを予定していたが、広葉樹の活着率を考慮して2025年の春植えに変更した。植樹実施までに時間ができたことで、本団体の事務局と関わりのある企業や知り合い等に、インスタグラムを通じて活動のお知らせと実施体制ができた。そのことで、植樹活動や森づくりに関わりたいという個人や企業とのコミュニケーションがより活発に

できた。

事業をよく知る関係者の声

- ・Jクレジットといった二酸化炭素の吸収源としての森林に関わりたい。カーボンオフセットやクレジット取引も始めている。梅田の山でもクレジットを出すような森林造成を期待したい。(繊維関係のベンチャー企業)
- ・今回は参加できなかったが、森づくりを最初から体験できるのはなかなかできない経験だと思うので、可能な範囲で協力したい。(群馬県内環境系コンサル企業)

参加者の声

- ・雨の中の植樹だったが、みんなでやると一瞬で作業が終わった。人の力ってすごい。(植樹参加者)
- ・企業がどのように協力できるかメニューがあるとよい。(桐生市内企業)



獣害ネット設置中の様子



青い獣害ネット設置完了



植樹の様子



植樹されたコナラ

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.32ha
 植付本数：95本
 獣害防止ネット設置：250m
 植林地までの踏査及び整備：500m

参加者数

県内：23人
 県外：8人
 計：31人

樹種

コナラ

北浅川上流地区の森を生き物豊かな健康な森にしよう！

東京都八王子市



事業概要

目的は、枯れ沢復活と山林の多面的機能発揮のため、生物多様性豊かな森への再生を目指し、森林土壌の劣化や地下水脈の不健全な状態を解決すること。主な活動は、①沢水の流れを停滞させている枝や土砂等の除去、②表土が流出しやすくなっている箇所へ枝葉を利用して小規模な土留めを施工、③炭や有機物を活用した土壌改善、④溝や穴を掘り大地の呼吸口づくり、⑤灌木の選定やスギ、ヒノキ、タケの除伐・間伐、⑥活動エリアの危険木等の伐採等。

事業成果

本年度は沢部中心から森全体を活動範囲にし、特に尾根部の整備も実施した。長期にわたり少しずつ活動エリアを広げてきたことにより、尾根部から沢部までの森林が一体

的につながり、視覚的にも感覚的にも連続性を感じられる森林空間へと変化してきた。さらに、今年度の活動を通じて新たに森や活動に関心を持つ人を増やすことができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・森林再生や生物多様性の創出のため、場当たりのな生き物の放流や植樹をするのではなく根本的な要因を探り環境そのものを改善していこうという会の活動は日頃から高く評価している。森林荒廃という環境問題の本質をマクロ、ミクロの多様な視点で捉えた上で、常に実際に手を動かしその結果を観察しながら、継続して実践していることが素晴らしいと思う。(環境活動団体)

参加者の声

- ・環境のことを学んできたが、実際に活動に参加し、学校で学んだことだけでは全く分かってなかったことに気づかされた。そして活動すること、継続することでの体感知が得られるのが楽しい。(20代男性 大学生)
- ・人の活動が森(自然)に良くも悪くも影響し、それが人の暮らしに巡ってくるのだなと実感した。自分でもできることがあるんだと思えた。(30代女性 会社員)



シノタケ刈り作業



タケの伐採



チェーンソー講習



灌木選定と土留め造作作業

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：0.2ha
除伐面積：0.2ha
その他：地拵え、つる切り

参加者数

都内：32人
都外：46人
計：78人

みんなで集う多様で豊かな森づくり活動

東京都八王子市



事業概要

目的は、八王子市梅ノ木平国有林や隣接民有林を対象に植樹などの森林整備、そのフィールドや研修施設を活用した森林体験教育の実施である。主な活動は以下のとおり。①過密になっているスギ・ヒノキ人工林の間伐と被害木などの処理、②ギャップ地や間伐跡地への植樹、除伐、刈出しによる混交林化の促進、③小中学校や地域グループ、親子などを対象にした森林作業体験支援、④間伐材を利用した木製品の製作など。

事業成果

昨年度事業に引き続き、刈出しや広葉樹の植樹により、スギ人工林の針広混交林化が進み、間伐・除伐等の整備済み森林が拡大した。また、親子などを対象に16回の森林作業

体験を行い森林理解の増進を図った。間伐材で工芸高校生が作成した木工品を都内の保育園に贈呈した。

事業をよく知る関係者の声

- ・森林体験を実施した。大自然の中での活動は、みんなが協力的であった。(小学校教諭)
- ・木材の生産について、実践を通じて学べた。貴重な経験になったと思う。(高校教諭)

参加者の声

- ・山を良くするためには、木を伐り、その木を使うことが大事だ。(男性参加者)
- ・除伐した山がきれいになってうれしかった。(女性参加者)
- ・植えた木の成長をまた見に来たい。(小学5年生)



ヒノキ被害木伐倒(定例作業)



植樹体験



除伐体験



木工体験

実績とりまとめ

作業内容

植樹面積：0.4 ha
 植樹本数：360本
 天然林施業・刈出面積：0.1ha
 つる切り・除伐面積：1.0 ha
 間伐面積：0.4ha
 歩道整備：1.0km
 体験活動：16回

参加者数

都内：806人
 都外：115人
 計：921人

樹種

ヤマザクラ、カツラ、ヤマグリ、ホオノキ、オオモミジほか

あすへ伝える森づくり

鹿児島県屋久島町



事業概要

ウミガメの産卵地として知られる屋久島・永田浜において、車のライトによる影響でウミガメが産卵を断念することを防ぐため、光を遮る森づくりを行うとともに、子どもたちが屋久島の山岳地で自然循環を体感することで、森林保全行動へつなげることを目的とした。主な活動として、①東京都内の子どもたちを対象とした植樹、②浜辺の清掃、③森づくりや緑の募金について学ぶ講習会を開催した。

事業成果

今年度は、植え方について専門の方々と詳細に検討した。子どもたちに苗のアイデアを募ったことから、植樹時は積極的な行動や他の班を手伝うなど、一体感が生まれた。また、各地の森づくりボランティアにも周知し、茨城、山梨、和歌山からも参加者がおり、屋久島植樹のネットワークが拡大しつつある。さらに、メディアにプレスリリースを送付し、子どもを対象とした森づくりに関心が寄せられた。

事業をよく知る関係者の声

- ・植樹地は、マツクイムシ被害で一挙に枯れた場所。一度失われた自然の再生がいかに困難を伴うか、さらに続けることにより確実に生きる木もあり、継続の重要性を学んだと思う。(40代 屋久島町ウミガメ監視員)
- ・東京から子どもたちが地元産の苗木で植樹を続けており、住民の森への関心が高まるきっかけになっている(30代 ネイチャーガイド)

参加者の声

- ・苗木を植える大きな穴を掘ったのは初めて。穴掘りが楽しかった。(小学2年生女子)
- ・砂地の中からカニが出てきて、草の中からバッタもいて森は生き物がいっぱい。(小学5年生女子)
- ・苗木も暑さに耐えて、森になってほしい。(40代母親)
- ・島の森のたくましさとともに、人が植樹していかないと、維持できない森もあることを痛感した(60代男性)



腐葉土と培養土を混ぜた特製客土を混ぜながら植樹の穴掘り



ウミガメを守る苗木を植える子どもたち



抵抗性クロマツを植樹



「ウミガメいのちの森」看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：150㎡
 植付本数：100本
 除伐本数：3本
 森林資源活用：植樹概要の案内看板
 その他：浜辺の清掃

参加者数

県内：27人
 県外：19人
 計：46人

樹種

抵抗性クロマツ、ハマビワ、ウバメガシ、タブノキ、クスノキ

三輪里山放置林整備と森林整備人材の育成

東京都町田市



事業概要

目的は、放置が進む町田市の三輪里山にて、森林整備等を通じた生態系の維持や地域参画を通じた森林環境教育、及び担い手となる整備人材の育成に取り組むことである。主な活動は、①森林等の整備活動（伐木、間伐、枯損木の処理、下草刈り等）、②整備人材の育成（伐木等の整備スキル習得等を目的とした里山林塾の運営）、③地域と連携した森林・里山における環境教育の促進（森林遊歩道の整理や企業植樹支援を対象とした植樹イベントの実施等）。

事業成果

今年度の里山林塾は9期生11名を迎え整備人材を育成中。また、ベテラン講師陣（80代）の近い将来の引退を見据え、8名の卒業メンバーが新たに講師に加わる等のサクセッションプランを遂行中。また、今年度は隣接する寺家ふるさと村へつながる林道整備や伐木材を活用し小川の橋の架け替え等を実施している。

事業をよく知る関係者の声

- ・里山林塾は整備リーダーを輩出するなど人材育成の場として機能しているが、敷地が広く人手不足が課題であり、継続的な人材育成が必要である。（他フィールド責任者）
- ・企業ボランティアを対象にした植樹活動の指導等、社会人の環境教育の場として広めてほしい。（企業ボランティア参加者）

参加者の声

- ・意義ある活動で、継続が必要だと思う。（30代 女性）
- ・里山整備は、何から始めればいいのか分からなかったが体系体に学ぶことができありがたい。（50代 女性）
- ・定年後の第3の居場所としてずっと通っていきたいと思う。（60代 男性）
- ・人が足りておらずもっと仲間を集めないといけないと感じた。（40代 女性）



下草刈り



枝払い



チェーンソー講習会



土壌改良用、竹炭ともみ殻燻炭づくり

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：3.0ha
 植付本数：17本
 下刈面積：11.5ha
 除伐面積：11.5ha
 間伐面積：11.5ha
 森林資源活用：土壌改良用竹炭づくり、薪割りほか
 林道整備：1.0ha
 その他：植生調査、講習会ほか

参加者数

都内：139人
 都外：325人
 計：464人

樹種

コナラ、ウメ、サクラ、ユズ

一般市民による湘南海岸林整備事業

神奈川県藤沢市ほか



事業概要

昭和初期から植栽が進められている湘南海岸砂防林において、維持管理をしている神奈川県藤沢土木事務所と連携を取り、海岸砂防林の整備を実施。活動内容は、①クロマツ林の下草刈り、つる切り、②クロマツ苗の植林や間伐・除伐作業、③土木事務所による海岸砂防林の学習会も行い、海岸砂防林の歴史、機能や重要性を市民の皆さんに学ぶ機会を提供。

事業成果

地元の小学生が海岸砂防林で集めた種から育てた苗を卒業記念で植林した部分がある。この場所で、卒業後7年を経て立派な若木に育ったクロマツの間伐を卒業生たちと実施した。昨年3月に植林した場所を含め、今後育林できる場所として守り続けていく方針である。

事業をよく知る関係者の声

- ・地元の神奈川県の方々はもちろん、毎回多くの皆さんに参加いただいており、大変ありがたい。毎回、工夫を凝らして海岸砂防林の成り立ちや機能を皆さんにお伝えし、海岸林により関心を深めていただきたい。(藤沢土木事務所・職員)

参加者の声

- ・初めの海岸林に関する講義が良かった。(40代女性)
- ・活動後に湘南海岸をランニングしたので、学んだ内容を実際に目で見て確認できた。(50代男性)
- ・子どもたちが小学校1年生から育ててきたマツの幼木の成長を見られた。成長したマツの間伐作業もでき、貴重な体験ができた。ありがたい。(30代男性)



指導員による活動の説明(茅ヶ崎市 湘南海岸砂防林)



下草刈りの指導中(茅ヶ崎市 湘南海岸砂防林)



卒業記念植樹で植栽したクロマツの間伐(茅ヶ崎市 湘南海岸砂防林)



子どもたちも一緒にクロマツ林のつる切り(辻堂海浜公園 湘南海岸砂防林)

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：1.0ha
間伐面積：0.2ha
その他：つる切り

参加者数

県内：71人
県外：40人
計：111人

山中湖たねのもりプロジェクト

山梨県山中湖村



事業概要

地元の要望に応じ、ススキ原と化した山を、野生動物の食料となる実をつける自生樹種を中心とした広葉樹林化を進め、野生動物と共存できる森づくりを目的とする。併せて、学生や一般初心者向けの森づくりの場として、体験作業や技術習得などができるように展開する。また、森づくりに関心を持ち、郊外や自然豊かな環境への移住を目指す人々には、森づくりの技術習得の機会を提供し、副収入につながる可能性を支援する。

事業成果

今までの植樹方法ではない、新しい植樹方法の実験的実施や育苗に取り組むことができた。一般個人ではなく、企業やグループなど、団体参加を希望する対象の体験的参加、次年度への課題を確認できた。

事業をよく知る関係者の声

- ポット苗の斜面植付けは、裸根に比べ準備も当日作業も、労力が数倍かかり難しい。また、天候の延期想定も必要だが、標高が高いために天候は読みにくく、また植付け可能期間も短い。故にマイクロバスなどキャンセル料や再予約が難しく融通が効きにくい移動手段の利用は再考を要する。結果的にはあるが、ポット苗の斜面育苗により、植付け時期調整の幅が広がる可能性が出た。(常連ボランティア)

参加者の声

- 急斜面のため、植付け作業よりも斜面での移動が断然大変。大苗ポットの斜面での植付け作業は初めてのため、活着率に違いが出るかどうかも含め、また確認に来たい。



ススキ原と化した山と実をつける広葉樹の大苗



植樹活動に参加した企業の苗掘り上げ



植樹地近くまで大苗を軽トラックで運搬



大苗を持って斜面移動

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.5ha
 植付本数：150本
 下刈面積：1.0ha
 除伐面積：1.0ha
 その他：斜面での仮植え・保育、育苗、種拾い

参加者数

県内：30人
 県外：90人
 計：120人

樹種

ミズナラ、コナラ、イタヤカエデ、イロハモミジ、ブナほか

世田谷・川場上下流連携の間伐材活用多様化事業

群馬県川場村



事業概要

放置されている群馬県川場村内の人工林（針葉樹林＝スギ・ヒノキ林）を下流域の世田谷区住民が地元の地権者などの村民と協力して整備することを目的とする。主な活動は、①地元住民と協力したボサ刈り・枝打ち・間伐、②植林後の低木育成のための下刈り、③間伐材を燃料として利用するほか、近隣の広葉樹林や竹林・松林の整備で発生するタケ・マツを原料とした炭焼き、地元で計画されているバイオマス利用への協力、④山間地散策路整備への材料提供や作業協力などによる、間伐材活用方法の多様化の確立。

事業成果

地元特産物のリンゴの植え替え時に伴う伐採木を炭焼き材として活用する試みが定着していたが、共同作業者などの諸事情で、今期は材料の調達まで実施した。

事業をよく知る関係者の声

- ・今後ともバイオプロジェクトへの積極的な関与をお願いしたいが、やまづくりくらぶの方たちの高齢化も進んでいるため内容の見直しに協力したい。（川場村村長）



広葉樹の除伐作業



間伐・除伐した材を炭焼き用に玉切り



炭焼き用の材



ボサ刈り作業の様子

実績とりまとめ

作業内容

間伐本数：74本
下刈面積：1.0ha
除伐面積：0.8ha
間伐面積：2.0ha
その他：ボサ刈り

参加者数

県内：88人
計：88人

令和6年度緑の募金保全活動事業

神奈川県相模原市



事業概要

本事業では、森林作業を通し、森林整備の意義について理解を広めるとともに、公益的機能の高い森林づくり活動を推進すること及び緑の募金運動を推進することを目的とする。主な活動は、相模原市緑区小原の尾根の遊歩道（奥高尾縦走路）沿いスギの皆伐地において、ボランティアを募り、広葉樹500本の植樹を実施した。

事業成果

当該地では、平成27・28年度に皆伐し、平成29・30年度に広葉樹の植樹を実施。苗木の活着率が芳しくなく、シカによる食害が確認されたため、今回の広葉樹の補植と同時に獣害対策を実施した。活動日当日は、一般参加者、企業・団体、ボーイスカウトの子どもたちも参加し、多世代間での交流がみられた。参加者は神奈川県森林インストラクターの指導のもと、森林整備の意義について、理解を深める

ことができた。また、遊歩道を歩く登山客も数多く見受けられ、緑の募金運動の普及啓発にもつながった。

事業をよく知る関係者の声

- ・ 道具や資材の運搬・参加者の輸送計画等課題は多かったが、県民とともに森林づくり活動を行った実績となった。今回得られたノウハウを元に、地元企業と協働する森づくり活動として今後継続的な活動を検討したい。(相模原市)

参加者の声

- ・ 野外での体験活動の機会が少なくなっており、今回の植樹の経験は子どもたちの教育には非常に有意義である。(ボーイスカウト指導者)
- ・ 付近を通行する登山客にも声をかけられ、一層やりがいを感じた。(ボランティア参加者)



開会式。総勢49名で植樹作業



植樹の様子(遠景)



植樹の様子(近景)



植樹後の山の様子

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：2.0ha
植付本数：500本

参加者数

県内：49人
計：49人

樹種

ヤマザクラ、マメザクラ、ヒメシヤラ、ケヤキ、イロハモミジ

相模湖若者の森づくり、小手澤の森整備活動

神奈川県相模原市



事業概要

放置林を中高生が主体となって、間伐・枝打ちの森林整備作業、果樹園部分のうち放置区画の早生樹であるセンダンの試験育成を行う。具体的な取り組み内容は、①昨年より活動を本格化した小手澤の森の整備活動を継続し、試験的に植樹したセンダンの植樹を拡大、②相模原市SDGs担当課、小中学校に加え東京学芸大とも連携を深め、間伐材を直接加工できるデジタルファブリケーションに挑戦。

事業成果

試験的に植樹したセンダン20本は生育の状況が良いもので3mを超えており、悪いものでも2mには達している。比較のため小金井市の学芸大内の周辺に樹木のない地点に植えたものが4m弱にまで成長していることから生育は悪くないと予想される。西日本など暖かい地域でなくても十分な生育が認められた。

事業をよく知る関係者の声

・緑のダム北相模のみなさんには小原宿活性化推進会議やその分科会に所属していただき森林整備だけでなく大変お世話になっている。これからも小原で、地域の方々とのおふれあいがより深まっていくよう、心から願っている。(地主)

参加者の声

・一見健康そうに見える木でも上部が枯れ、腐っているものがあるなど、普段山を歩くだけでは気づかない森林の一面を知ることができた。また、光の入り方によって下草の生え方に違いが見られたことも印象的であった。毎木調査は大学の実習でも経験があったが、今回の森林では木が太く下草も多く、大変ではあったが、貴重な経験となった。(大学生)



間伐後に残ったつるを観察する子どもたち



高校生の実習で竹林整備



早生樹のセンダン育成状況



積み木イベント(こがねい環境フォーラム)

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：0.5ha
 間伐面積：2.0ha
 森林資源活用(タケの利用)：1.0ha

イベント：4回

参加者数

県内：64人
 県外：440人
 計：504人

「山の学校」～水が繋ぐ地域と世代～促進事業

山梨県道志村



事業概要

未来を担う次世代のために、森林が有する多面機能の向上や地球温暖化防止策、国土保全などに対する具体的な行動の取り組み案として「山の学校」を継続的に開校することを目的とする。主な活動は、水源林保全を体験学習する宿泊型・日帰り型「山の学校」の開校。水源地保全学習を始め、食育も交えながら間伐体験や上下流域の交流、川上地域食材の採集と調理体験等を実施する。

事業成果

新たに食育を取り入れた体験学習コンテンツを導入し、森・生態系・食のつながりを学べる内容へと発展させた。森

林保全活動をより身近なものとして発信できたとともに、森林循環への理解を深めてもらうきっかけとなる取り組みになった。また、植樹してきた苗木は、根付き成長しているものもあり、山づくりへの一定の貢献が認められ、山づくりに要する歳月や労力を実感する機会となった。

参加者の声

- ・大径木の間伐見学が楽しかった。山の中で最も樹齢の高い木がどれなのか気になった。
- ・山がどうやってできるのか知りたいと思った。また参加したい。
- ・山や自然を守るためには、ごみを減らしたり、みんなに今日の活動を知らせて共有することが大切だと思った。



小径木間伐体験



収穫体験



木工体験



大径木伐倒見学

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：2本

日帰り型山の学校：2回

参加者数

計：30人

樹種

スギ

持続的な竹林整備と普及活動

神奈川県横浜市、中井町



事業概要

担い手不足による放置竹林を解消するため、竹林の持続的な保全と活用を行った。主な活動は以下のとおり。①竹林間伐と整備：(春) タケノコの間引きと保護、(夏) 若竹の育成と伐採、(秋から冬) 高齢竹の伐採、②間伐材の活用と普及啓発活動：竹林内で行う「竹灯笼祭り」の開催、タケノコの間引きと母竹育成のための「たけのこ掘り」イベントの実施、③保全活動の持続的担い手育成のための「竹の学校」の開催。

事業成果

事業実施において、少子高齢化、気候変動に対応するため、保全活動では生産性を向上することで作業日数を削減、「竹灯笼祭り」は逆に準備に大幅な日数を確保することで高齢化に対応、「筍狩り」を休止していた中井で再開すること

ができた。また、自治体、企業のCSR、学校の総合学習等の間伐体験活動は前年比27倍に増加した。昨年に続き新入会員増加、特に女性の比率が高く、学校も含め8割を占める。

事業をよく知る関係者の声

- ・整備活動に感謝。今後予定する町の竹林再生事業にも協力してほしい。(地元自治体関係者)
- ・過疎化の進む地方の放置竹林を解消するには地主さんや都市部のボランティアに頼るのが困難な時代になってきた。タケ、タケノコ、竹林に付加価値を創出し、原価をカバーする仕組みとセットでなければ継続が困難。

参加者の声

- ・メンマを作ってみたい。(タケノコ掘り参加者)
- ・自分も参加したい。(竹灯笼祭り入場者)



タケノコ掘り (小机城址市民の森)



竹垣改修 (横浜国際プール林浴の庭)



竹灯笼製作 (横浜国際プール林浴の庭)



竹灯笼設置 (小机城址市民の森)

実績とりまとめ

作業内容

竹林整備：88回
竹灯笼祭り：2回
たけのこ掘り：4回
竹の学校：9回

参加者数

県内： 958人
県外： 95人
計： 1,053人

山北町丸山A・B地区整備事業

神奈川県山北町



事業概要

本事業は、森林整備の必要性及びその手法を学ぶとともに、人との関わり方や将来の方向性を考える力を養うことを目的とする。併せて、社会に出て必要なものと不要なものを見極める判断力を身につけ、社会の一員として貢献する意識の醸成を図る。

事業成果

森林整備の活動は、平成9年から開始し、令和6年で60回を経過した。この間に多くの学生が社会に貢献しており、森林整備で会得したことが社会や自らの将来や生き方に生かされている。また、活動している学生が自主的に行動できるようになってきたが、指導を継続し自主性の向上を目指したい。



下刈り



枝落とし



除伐



チェーンソーの講習

実績とりまとめ

作業内容

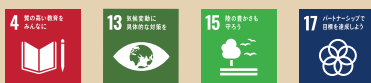
下刈面積：0.9ha
 除伐面積：0.2ha
 間伐面積：0.2ha

参加者数

県内：47人
 県外：59人
 計：106人

宮大工 SDGs クラフトマンシップキャンプ

山梨県道志村



事業概要

目的は、神奈川・東京の街の住民（川中）に水源の森（川上）の現状を周知し、森林整備への参画を通じて「森—街—海」の循環（木なりわい）を回復・定着させること。併せて、山の人手不足をボランティアで補完し、細径間伐材を製材・街で活用する実装モデルを確立することである。主な活動は、森林整備（間伐）・放置製材所清掃・設備復旧、間伐材の利活用検討や循環型経済の設計等を進めた。

事業成果

製材所復旧を進め、清掃完了し台車可動と刃更新まで進められた。間伐作業を通じて、環境課題への当事者意識が醸成された。細径材を街で生かす商品化と森還元を組み込んだ循環設計を具体化。また、本活動同様の課題を抱える地域から参画・横展開の打診があった。教育面ではエコしめ講師資格を認定や技術資格制度案を作成。運営・安全体制の標準化、試作品開発等を進めた。

事業をよく知る関係者の声

- ・多くのボランティア参加者がいる中で一体感があった。今後の展開が楽しみである。（地域共生活動委員）
- ・現地から直接、課題や困りごとを聞いたことが大きい。ボランティア同士との交流も価値があった。（一般参加）
- ・活動前の目的共有が丁寧で、学びと交流が両立した。（会社経営者）
- ・今後、課題に多角的にアプローチできる。（学生）

参加者の声

- ・非日常の体験でリフレッシュでき、社会貢献の実感があった。（一般参加）
- ・身近な地域の林業の実状と課題を学べた。ボランティア同士の交流も有意義だった。（一般参加）
- ・地域の方・皆さんとつながれ、人脈形成や情報交換が進んだ。（学生）
- ・やりがいのある活動であった。（留学生）



実際に山へ入り現状を知る「森林保全勉強会」



間伐作業後、伐採木の玉切りを実施



山奥に使い捨てられ廃墟となった古い製材機



製材機の清掃を行い、細部のほこり・ゴミ・さびを除去

実績とりまとめ

作業内容

間伐本数：15本
 廃製材所の清掃：180㎡
 廃製材機のメンテナンス：3台
 森林資源活用（間伐材利用商品化作業）：2回
 森林保全勉強会：1回

参加者数

県内：73人
 県外：17人
 計：90人

「子どもと森が育つ」共生型の森づくり

福井県福井市



事業概要

目的は、子どもの豊かな心の育成と持続可能な豊かな森づくりを福井県に広げていくことである。主な活動は、子どもが育つ森遊び・体験事業と森が育つ森林整備事業である。

事業成果

親子体験プログラムに間伐の見学を取り入れることで、参加者が森を実際に体験する機会となり、森そのものへの関心から、森の循環への理解・関心へと発展した。その結果、日常生活の中で木材がどのように利用されているのかを再認識することができ、環境全体への関心がより一層高まった。

事業をよく知る関係者の声

- ・毎回参加者の反応が良く、楽しくボランティア参加ができた。母親参加が多かったので、男性の手(父親など)の参加を促す仕組みがあると重労働する上でとても助かる。(林業従事者兼ボランティア参加者)

参加者の声

- ・普段、外に出て遊ぶ機会がほとんどない我が子にとって、非常に貴重な体験になった。親も自然の中で活動した経験がなく、何をどのようにすればよいのか分からないことが多い。そのため、このような企画をしてくださりとても感謝。(保護者)



親子イベントを実施



ツリーイングのレクチャー



イベントに参加した子どもたち



木の根元には何が隠れているか探る子ども

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：30本
 下刈面積：8ha
 除伐面積：4ha
 間伐面積：7ha
 森林整備：4回
 イベント(森あそび、体験)：7回

参加者数

県内：155人
 計：155人

樹種

クヌギ

人工林の間伐実施によって森林の再生

長野県生坂村



事業概要

人口減少と高齢化が進む集落において、適切に管理されていないスギ人工林の間伐し、下層植生が豊かで地力のある森林へと再生させることで、災害に強い森林にすることを目的とする。活動内容は、約40年生以上のスギ人工林を対象にプロット調査を行い、約60~70本の間伐を実施した。

事業成果

本事業による森林整備の取り組みを通じて、地域の森林所有者の間で森林整備に取り組む意識が高まり、将来的には森林を集約し、面的に整備を進めることについて検討したいとの要望や特用林産物（山菜等）の生産に取り組みたい

との意見が寄せられた。

事業をよく知る関係者の声

- ・スギ人工林の間伐整備状況を安全な場所から確認した。林内が明るくなっていく様子を見て、まだ整備されない森林の手入れのイメージが掴めた。(財産区執行部・森林所有者)

参加者の声

- ・今回の人工林の間伐作業によって、林内が非常に明るくなり、今後の特用林産物生産への取り組みの方向性が見えてきた。森林の有効利用への意欲が湧いてきた。(森林所有者)



間伐実施選木マーキング作業



間伐作業



枝打ち



事業看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

間伐本数：66本
除伐面積：0.25ha
その他：プロット調査、選木作業など

参加者数

県内：47人
計：47人

「はだしの森」プロジェクト第2章 市民参加型の維持管理への道

岐阜県美濃市



事業概要

「はだしの森」と「はだしのトレイル」の持続可能な維持管理をするため、市民参加型の森林空間活用と維持管理システムを概ね3年間で確立し、持続可能な森づくりのモデルを構築・全国に発信することを目的とする。主な活動は、市民を対象に、2か月に1回の頻度で専門家の指導のもと共に作業し、整備技術の習得や維持管理の考え方を深めるとともに、継続的な市民コミュニティの育成を図る。

事業成果

本事業は、活動の自立化を目指す3年計画の1年目である。森づくりの作業において、市民が講師と共に考え、意見や提案、発見を共有する時間を設けた結果、森のメンテナンスを「自分事」として主体的に捉え、活動する市民が

徐々に現れたことが大きな成果である。また、森も風通しが良くなり、植生や土壌に変化が見られ、以前よりも健康な状況になってきている。

事業をよく知る関係者の声

- ・参加者の自主的な関わり方を促しながら森づくりやメンテナンスをする「はだしの森メンテナンスワーク」は、森への興味関心や視野を大きく広げ、主体的に森に関わるきっかけを生み出している。また、人々がそれぞれのスタイルや専門性を生かして楽しそうに関わっている姿は、これからの市民参加型の森づくりや公園づくり、空間づくりのモデルである。(森林総合教育センター「morinos」スタッフ)

参加者の声

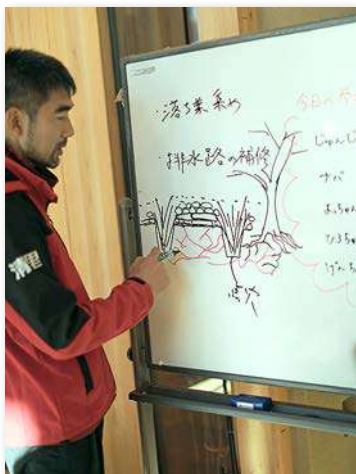
- ・はじめは「はだし」、「健康」をきっかけに参加したが、最近は森や土壌の菌の世界のことが気になる。みんなとやる作業も最高。(30代 会社員)
- ・いつ来てもいつ帰ってもいいし、作業も好きなペースでできるのがうれしい。(40代子育て中の母親)
- ・ここで出会った仲間と気軽に話をしながら野外で作業できるのがいつも楽しみ。(60代 女性)



土留の杭打ち



落ち葉集め



自然素材を使った排水路の検討



竹林の整備をして土壌改良に使用する竹炭づくり

実績とりまとめ

作業内容

はだしの森勉強会・メンテナンス作業：6回

参加者数

計：97人

都市近郊の新しい里山づくり

東京都八王子市



事業概要

本事業は、ネイチャーポジティブの考え方に基づき、都市近郊の荒れた里山において森林再生による活動を通じて、二酸化炭素吸収とともに、地域住民が主体的に参画する自発的な環境保全活動の促進を目的とする。主な活動は、荒廃している竹林を伐採後、育てた広葉樹を中心に苗を植え、生態系の豊かさを取り戻す。

事業成果

昨年より多くの地域住民が活動に参加し、ドングリの会から地域住民によるボランティア活動へと移行しつつある。特に、下刈りや手入れなど、誰でもできる作業が中心となったため、多様な人が集まり活動が活発した。また、成長した木々の緑に触れたり、里山の環境が豊かになっていることを実感できるようになってきている。安全面では、ベテラン参加者との協力でスズメバチの除去が進んだ。さらに、子ども参加の催しで地域のつながりも強まった。

事業をよく知る関係者の声

- ・昔は誰も近づけなかったような場所が、今では安心して歩ける場所になったことは本当に素晴らしい成果。
- ・植樹した木々が成長している姿を見ることで希望が湧く。今後の展望を明るくするための励みにもなる。
- ・周辺の学校との連携がより本格的に進まないことは非常にもったいない。この貴重な緑地をもっと利用して、子どもたちの教育の一環として活用することが重要。

参加者の声

- ・これまでの長い期間、みんなはよく取り組んできた。
- ・食べられる果樹や山野草や自然薯などたくさん植えて、お土産に持って帰れるようになったら、若者の参加者が増える可能性がある。
- ・近隣の小中学校に区域を分担して森林を管理してもらい、子どもたちが、自分で収穫したものを自分で料理して食べるというプログラムも可能性がある。



2023植樹祭(苗畑エリア)の整備



活着確認とつる切り



スズメバチトラップづくり



地元の造園業の方によるロープ張りのレクチャー

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.2ha
 植付本数：285本
 下刈面積：3.0ha
 除伐面積：3.0ha
 間伐面積：1.0ha

参加者数

都内：225人
 都外：15人
 計：240人

樹種

ソメイヨシノ、オオシマザクラ、ヤマザクラ、イロハモミジ、ケヤキほか

愛知県岡崎市額田地区の森林の間伐整備活動

愛知県岡崎市、豊田市



事業概要

本事業は、愛知県岡崎市の私有林及び公有林の森づくりを行うため、年間50日間の間伐整備を実施した。また、能登半島地震被災地の慰問及び被災地保育園への積み木の贈呈を行った。

事業成果

地域の安城市、岡崎市の公立保育園全園への積み木の寄贈活動が完了した。本年度、新たに取り組んだ「能登半島地震被災地への慰問と被災地保育園への積み木の寄贈活動」では、12公立保育園を有する加賀市に慰問・贈呈活動を実施。12園のうち、4園の公立保育園に積み木を寄贈することができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・加賀市では、加賀市危機対策課から、能登半島地震の被災状況や復興の現況について説明を受け、志賀町では稲

岡町長から、町役場自体が被災した状況の中での苦労話や、実際に役場の損壊状況も見学し、被害の深刻さを実感することができた。その後、同町富来地区に移動し、全壊した住宅を更地化した現場や、瓦礫の処理現場、地盤変動により廃校となった小学校や、仮設住宅などを視察し、被災された方々や復興に尽力されている皆さんの大変さを身をもって感じる事ができた。

参加者の声

- ・加賀市で積み木を寄贈した4つの保育園のうち、一つを訪問し、園児とのふれあいの場が設けられた。寄贈した積み木で子どもたちは、「宇宙船」や「恐竜」、「お城」など自由で作っていた。保育士からは、「ヒノキの香りや、木目、触感など、園児たちが木のぬくもりを感じることができるとの感想がいただけ、園長からは、「子どもの自発性、感性を重んじる教育が実践され、子どもたちの想像力の豊かさに園の職員も日々感心させられる」とのご意見をいただいた。とても学びある心に残る訪問となった。



伐倒する木の供養と安全祈願



枝払い作業



里のまちマルシェに参加し、緑の募金・PR活動



贈呈した積み木で子どもたちとふれあいながら遊ぶ（慰問贈呈活動）

実績とりまとめ

作業内容

間伐面積：5.9ha
 間伐材出荷量：67.39m³
 その他：能登半島地震被災地
 慰問・贈呈活動

参加者数

県内：500人
 県外：16人
 計：516人

常滑高坂野営場森林整備事業

愛知県常滑市



事業概要

野営場内の森林が鬱蒼としているため、明るい開放的な野営場とすることを目的とし、3年計画で森林整備を進める。今回は計画の2年目に当たる。整備終了後は、地域市民を交えた交流や、将来的には新城市で行っているみどりの少年団、ガールスカウトとの交流「どんぐり交流会」を実施していく。新城市は愛知東部地域、常滑市は愛知西部地域として活動の場を拡充していく。

事業成果

3か年計画の2年目で、半分以上の森林整備ができたことにより、利用・活用に多くの意見が出された。愛知県には東部地区と西部地区の2か所の野営場があり、今回の整

備により活動の場の広がりには期待がある。

事業をよく知る関係者の声

- ・2年目ということもあり、森林整備の結果が視覚的にも見やすくなってきた。3年目の意欲を感じる。また、各自の判断での作業が見られたため、統一した指導の必要性がある。

参加者の声

- ・着実に整備が進んでいることを感じた。整備終了後について希望が持てた。基本は野営場だが、地域とのつながりが持てる活動を考える必要がある。(ボーイスカウト愛知連盟)



野営場の森林整備



伐倒木や除伐木などの整理作業



森林整備の標柱を設置



集合写真

実績とりまとめ

作業内容
除伐面積：2.4ha
参加者数
計：54人

高山地域森林資源を再発見する「スセ・モリカツ」事業

愛知県豊橋市



事業概要

高山(すせ)校区自治区地域住民が地域の森林資源を活用する事業を行い、山主を含む地域住民と地域森林の関係を結びなおすことを目的とする。活動は、①校区自治区文化祭での木工ワークショップ・薪づくりデモによるPRとスセ・モリカツ参加者の掘り起こし、②薪割り機利用を中心とした地域団体スセ・モリカツの体制づくり、③間伐・木材資源活用(薪づくり)活動、④チェーンソー技術講習会。

事業成果

住民主体の森林資源活用団体「高山森林資源活用研究会」の活動体制づくりができた(基礎技術習得、意識醸成)。薪づくりを核とした森林資源活用需要の可能性と課題を整理できた。新規移住者も参加し、自治会を超えた住民交流・連携活動を実施できた。購入した薪割り機等を活用し、倒木・間伐材による薪づくりを実施した。県・市が連携する

里山整備事業の具体化にも貢献した。

事業をよく知る関係者の声

- ・校区自治区長、倒木処理を行った正宗寺和尚、間伐を行った山主からは、活動に好意的な意見をいただいている。薪割り機の需要はあり、開かれた会の活動を実現する必要がある。今後、機材貸出のルール化や安全・技術教育を含めた会の活動参加を誘導する予定。

参加者の声

- ・パワーのある薪割り機を活用でき、薪生産が効率的にできるようになった。(新規会員60代男性)
- ・チェーンソーのメンテナンス・使用方法、安全対策をキチンと理解できるようになった。(講習会に参加した会員外の高山住民40代女性)
- ・高山の森の整備や活用を行うことができる自信を感じている。(会員60代男性)



高山校区文化祭での薪割り



チェーンソー講習会座学の様子



広葉樹材で薪づくり(薪づくり講習会)



野外実習で受け口追い口の実践(伐木講習会)

実績とりまとめ

作業内容

- 除伐面積：0.1ha
- 間伐面積：0.9ha
- 森林資源活用(薪材)：5.5m³
- イベント：2回
- 講習・研修会等：3回

参加者数

- 県内：910人
- 計：910人

猿投山北西山麓の環境林整備

愛知県瀬戸市



事業概要

猿投山北西山麓において、健全で活力ある人工林の育成と環境林としての機能を向上させることを目的とする。活動は、①「県有林やまじの森」、「日本山岳会所有地」、「東大演習林」において放置された人工林の間伐を行う。②雑木林では定期的に除伐し、保健保安林として機能維持させる。③自然観察道の笹刈り・除伐・道路保全を行い、近隣住民・ハイカー・登山者に「愛される森」となるよう整備する。④せと環境塾・なごや環境大学において一般応募者に森の手入れを体験してもらい、森の機能について学び、併せて「SDGs」についての教育を行う。

事業成果

「わいがや講座」を昨年に続き今季2回開催することがで

きた。2月に開催した「救命講習」では作業中に起こる不慮の事故に対応すべく「止血法」や「骨折時の応急手当法」、「胸骨圧迫・人口呼吸法」など万が一の事態に対応できるよう、消防署職員による勉強会を開催した。併せて、講座に参加できなかった会員への情報共有を目的として、講習内容を会報に掲載した。

事業をよく知る関係者の声

- ・観察道はきれいに草刈りされ、間伐も行き届き、明るく気持ちの良い「憩いの森」となっている。また、木々に樹木名板が掲示されており、木の名前を覚えながら散策できる。(瀬戸市環境課に届いた市民の声)
- ・生物多様性のある森に整備している活動に対する高い評価があり、今後の継続的な活動への期待の表れを感じる。

参加者の声

- ・「森の中での初めての体験」で子どもたちが楽しそうだった。保護者も森の中でリフレッシュすることができ大変良かった。(イベントに参加の親子)
- ・作業で「健康維持・ストレス解消」、ハイカーからのかけ声で活動に「やり甲斐」を感じている。(会員)



「焼き物づくりを体験」での粘土採取風景 (なごや環境大学)



消防署職員による「救命講習」で胸骨圧迫(わいがや講座)



作業道整備



人工林間伐作業

実績とりまとめ

作業内容

除伐面積：0.6ha
 間伐面積：0.5ha
 森林資源活用：ベンチ、シイタケ栽培等
 イベント：2回
 自然観察道整備：3.1km
 作業道整備：2.6km

参加者数

県内：914人
 計：914人

里山整備で人を呼び過疎地域の活性化を図る

京都府木津川市



事業概要

目的は、過疎と高齢化で荒れてしまった里山を会で買い取って整備をし、イベント等で人を呼び込んで過疎地域に賑わいを取り戻すことである。主な活動は、①買い取った里山から順に作業道を整備、②間伐した竹で遊具づくり、③タケノコ狩りや流し素麺イベント、バウムクーヘンづくりなどのイベントを実施。

事業成果

ドットJPの学生ボランティア（政策提言などを行う学生団体）や、他にも若い参加者が増えてきて会員が若返り、旧

来の参加者も頼られることで元気になった。

事業をよく知る関係者の声

- ・山の中心部に売ってもらえない土地があるため、活動場所が一周する状態にはなっていない。当該地を早期に継続できるよう、道路のみでも整備することが望ましい。（森林組合）

参加者の声

- ・タケで作った遊具があって、遊園地みたいで楽しい。（イベント参加者）



竹林整備



支障木の伐採



流し素麺キットづくり



バウムクーヘンづくり

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：22本
 下刈面積：1.5ha
 間伐面積：0.6ha
 森林資源活用（タケノコ・ワサビ）：300kg
 イベント：9回
 研修：9回

参加者数

府内：342人
 府外：129人
 計：471人

樹種

サクラ、アジサイ

森林、里山保全整備、間伐材利用・加工事業

兵庫県市川町、和歌山県紀美野町、岡山県美作市



事業概要

昨年度の取り組みを踏まえ、後継者不在等により荒廃が進行している森林や里山の課題解決に継続して取り組むとともに、地域の自然環境の保全・再生を図ることを目的とする。主な活動は、①地域住民、岡山県の仲間とともに結成した「草刈り隊」による森林・里山保全、②森づくり普及啓発、新規参加者の募集、森林・里山保全を継続、③専門講師による子ども向けの間伐材活用・森林整備を通じ、森づくりのリーダー育成。

事業成果

放棄された棚田を4枚再生(合計8枚)できた。大変な草刈りや整備も多かったが、森林・里山とふれあう機会が少ない参加者が、棚田・里山を再生することで、手を入れる

ことの大切さや整備・日々の管理の重要性を学んだ。講師に来ていただいて間伐材の活用方法も学び、新しい家族の参加者も2家族増えた。

事業をよく知る関係者の声

・移住者など、より担い手が増えるようにさらに交流企画など進めてほしい。(60代地域の自治会長)

参加者の声

・貴重な体験をさせていただき、深く感謝。忘れられない記憶となりそうだ。今後も、もしこのようなすばらしい企画があったら、ぜひ家族3人で参加させていただきたい。木の伐採、チェーンソーを使ったりなど、自分とは無縁だと思っていた作業を初めて経験したが、前より少し身近に感じられ興味を持てたので、また使ってみたい。



森づくり普及啓発 (和歌山県紀美野町の棚田)



子どもたちと一緒に里山での草刈り



草刈り隊による溝掃除



間伐材等を使ってツリーハウスづくりの基礎学習

実績とりまとめ

作業内容
 下刈面積：0.8ha
 除伐面積：0.05ha

参加者数
 県内：65人
 県外：53人
 計：118人

放置林の整備及び林業体験ワークショップ

熊本県阿蘇市



事業概要

目的は、林業体験を通じて、森林整備・保力が災害に強い森づくりにつながることで、また、未利用の森林資源である薪の活用が地球温暖化防止に寄与することについて、理解と関心を深めてもらうことである。活動内容は、①親子向け林業体験ワークショップ、②地元林業者による、災害に強い森づくりと森林保全に関する講話、③立木伐採の実演と間伐材搬出の見学、④安全講習、チェーンソーや竹の伐採、薪割り体験。

事業成果

イベントは昨年同様4回開催し、うち2回は小雨の中で実施した。天候に恵まれない中でも参加者は延べ84名が参加した。過去の参加をきっかけに、林業に従事した例もあ

り、関心喚起に寄与した。アンケート(約50名)では92%が災害に強い森づくりへの理解、84%が満足と回答があった。

事業をよく知る関係者の声

- ・暖談の会参加者の中から新たに林業に従事した方が現れ、イベント講師である林業関係者の方々も大変喜んでた。また、イベントを継続してきて良かったという声が上がっており、県の林業振興課からも高い評価をいただいた。(伐採委託事業者)
- ・近隣周知不足で駐車場が不足。今後は余裕をもって確保したい。(当日運営スタッフ)

参加者の声

- ・木材の価格や林業従事者の不足など理解できた。
- ・話をされる方の生きざまを感じられた。
- ・林業の現状について詳しく説明していただき、理解の一助となった。
- ・森林がソーラー発電に変わっているのが残念。
- ・日本に生活するものとして、大事なので、周囲にも伝えていきたい。



油圧式薪割機を使った薪割り体験



スマートスピッターを使った薪割り体験



災害に強い森づくりと森林保全に関する講話



チェーンソーの使い方講習

実績とりまとめ

作業内容
暖談の会(薪づくりワークショップ): 4回

参加者数
県内: 103人
県外: 9人
計: 112人

養蜂から見える癒しの森里山再生活動 (No.3)

熊本県八代市



事業概要

目的は、里山の美しい景観を次の世代に引き継ぐために、遊歩道や水の整備を行い、太陽の光が差し込む森づくりを目指すことである。主な活動内容は、①定期的な除草、除間伐作業、②設置した防獣ネットの定期チェック、③シイタケ駒打ちとシイタケの収穫、④養蜂箱の手入れ、新たに蜜箱の設置、⑤林道の補修等。

事業成果

スギの間伐とクヌギ伐採で森に光を取り入れ、伐採木は枝葉処理やシイタケ栽培に活用した。また、養蜂箱の手入

れを行い、林道は小型掘削機と砂・砂利・セメントで補修し、安全で耐久性のある散策路を整備した。

事業をよく知る関係者の声

- ・除間伐・除草作業は結構な重労働だ。(60代男性)
- ・地域の若い人は少ないが、興味を持ってもらえるようにこれからも活動していく。(70代男性)
- ・これからの活動も楽しみにしている。(70代女性)

参加者の声

- ・チェーンソーの使い方を学ぶことができた (50代男性)
- ・薪割り機を初めて使った。楽しかった。(30代女性)



木材の搬出



除草作業



林道の整備



薪割り機で薪割

実績とりまとめ

作業内容

間伐面積：2.0ha
枝打本数：40本
除草面積：2.5ha
木の搬出・林道整備：5回

参加者数

県内：57人
計：57人

人工林の継続的整備と活用

大分県杵築市



事業概要

人工林の間伐を進めて多様な生物の暮らせる針広混交林を育てることを目的とする。活動は、①広葉樹の植樹、樹種の名前づけ、伐採による光の導入で埋没種子の自然萌芽を促進、②急斜面の土砂流出防止のため、大地再生の手法を取り入れ、草刈りや溝掘りで水と空気の流れを整備、③山の手入れへの関心を高めるため、誰でもできるのこぎり伐採を実施、④間伐材の有効利用として、伐採した木を製材し、ウッドデッキを製作。

事業成果

事業により山に光が入り広葉樹の芽吹きが促され、侵入タケの伐採で風通しも改善した。ウッドデッキづくりでは間伐の意義を伝えることができた。熊本の木育・水育講座でも皮むき間伐と、間伐材を利用することの大切さを普及。杵築市などから後援を受け、幅広い年代のボランティアも参加した。

事業をよく知る関係者の声

- ・普段触れる機会の少ない森林環境を現地で体験できる有意義な活動だ。森林の現状や魅力を知るため、多くの人が参加すべきだと思う。(50代 林業従事者)
- ・未整備の森林に作業道をつくることで木材搬出や手入れが容易になり、荒れた山林が美しい里山に変わる。緩やかな道は堰堤の役割も果たし、気候変動時代に注目すべき活動だと思う。(40代 養蜂家)

参加者の声

- ・樹木の名前づけをして、木に種類があること、スギとヒノキが似ていることを知り興味が湧いた。(30代 会社員)
- ・侵入竹の伐採や溝掃除で山に風が通り、空気が変わったと感じた。気持ちよく、また体験したい。(40代 自営業)
- ・子どもに自然体験をさせたくて参加。自分で伐った木が製品に変わる体験をさせることができて良かった。(40代 会社員)



植樹



樹木の名前づけ



運び出した丸太を製材体験



製材体験、伐採体験などで出た間伐材を使ってウッドデッキづくり

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.1ha
 植付本数：2本
 間伐面積：0.5ha
 森林資源活用：150本
 道づくり：410m
 その他：大地の再生、製材体験、炭焼きほか

参加者数

県内：228人
 県外：59人
 計：287人

樹種

クルミ、ヤマモモ